



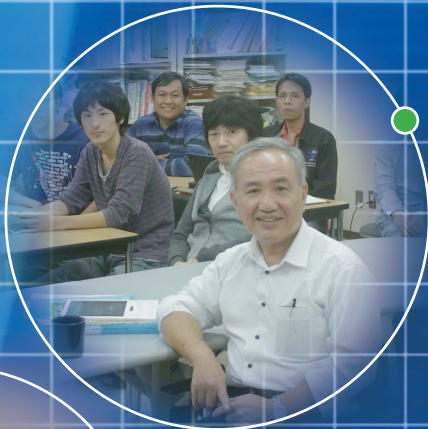
国立大学法人

豊橋技術科学大学

# 同窓会報



<http://www.facebook.com/toyohashi.tech>



第31号 2014 豊橋技術科学大学同窓会

2014  
No. **31**



# ごあいさつ

## 第7代同窓会会長就任のご挨拶

### 年次や系を越えた豊橋技科大OBの更なる輪の広がりを！

旧第3系（電気電子工学）1期 古野 志健男  
＜（株）日本自動車部品総合研究所 専務取締役 ＞



去る2013年10月12日の豊橋技術科学大学同窓会定期総会での推薦／承認を戴き、同11月1日付で第7代会長に就任させて戴きました旧第3系1期生の古野と申します。

光陰矢のごとしと申しますように卒業して早32年が過ぎてしまいましたが、ぬかるんだ田んぼのような構内で入学したことが昨日のこのように脳裏に焼き付いています。

開学は1976年ですから2011年には35周年記念事業が盛大に行われ、2016年には40周年記念事業が計画されています。

少し振り返ってみますと、1978年に我々1期生が入学して新しい豊橋技科大の運営が実質的にスタートしました。教職員と学生全員での手造り・手探りの学園生活で、苦労はあったものの自分たち全員で構築していくんだという自由度と高いモチベーションがあり、楽しかったことを思い出します。

例えば、研究室のレイアウト作り、各研究室の運営、学生会の発足、第1回技科大祭開催、就職活動等

全てがチャレンジでした。

あれから30年以上が経ち、今までの教職員や学生の皆様のご活躍で豊橋技科大も大きく変革され、プレゼンスも格段に向上してきました。特に、昨年2013年には文科省の「研究大学強化促進事業19大学」や「博

士課程教育リーディングプログラム15大学」にそれぞれ採択され、また長岡技科大と国立高専機構の三者連携によりマレーシアのパナンに国立大としては初めて海外教育拠点を設置し、いずれもグローバルでアクティブな活動をスタートされています。

一方、多くの卒業生たちも日本を中心に企業や教育機関の第一線のリーダーとして活躍され、豊橋技科大のネームバリューを更に向上されてきたことを誇りに思うと共に頼もしい限りでもあります。

そんな中、同じ母校の仲間として、年次や工学系を越えた豊橋技科大卒業生の有機的かつ異分野の輪や絆が拡大できれば、我々卒業生自身も大学も更に飛躍できるのではないかと思います。加えて、それが唯一貴重な日本の資源である技術科学力を有する若い将来人材の育成の一助にもなるのではないかと私は考えています。

そういう意味で、我々のこの同窓会を運営していければと思いますので、卒業生の方々のご理解・ご協力・ご鞭撻をお願いして、挨拶に代えさせて戴きます。

## 退任のご挨拶

前同窓会会長（旧4系1期） 1期 高 嶋 孝 明



多くの同窓生の皆様がそうだと思いますが、母校には絶大なる誇りと自信と信頼を持ち、自らは社会で仕事に邁進されていることと思います。私も、同窓会の会長をお引き受けするまでは、大学に目を向ける機会ほとんどありませんでした。言い訳になりますが、決して忘れていた訳ではありません。何も心配ない、ますます発展して良い成果を出して行くことは間違いなし、と心の底で応援をしていました。

しかし、同窓会会長を引き受け、同時に大学の経営協議会の学外委員に就任して、その見方は一変しました。数ヶ月毎に開催される会議で、大学の経営と置かれている環境を知るにつれ、とてつもない厳しい環境に置かれていること、学長を始めとするすべての教職員の皆様の血のにじむ努力の上に現在があることを理解しました。また、この先も全く安泰ではない厳しい道のりがあることを知りました。またその一方で、新しいチャレンジし甲斐のある仕事が多くあることも知りました。

そんなご縁と様々な偶然が重なりあって、2014年12月末に会社を早期退職し、技科大での新しいキャリアを歩みだすことにいたしました。

本学の情報工学専攻の第1期修了生として1982年にIBMに入社、社会人32年すべてをIBMで過ごしてきました。製品開発研究所の人間工学部門に所

属し、ThinkpadなどのPC製品から、端末装置、ソフトウェア製品、マニュアルなどのユーザー・インタフェースの使いやすさを追求する仕事を皮切りに、ハードディスク開発製造の事業部長補佐・営業技術・米国駐在・グローバル需給オペレーション、また半導体部門でのテクノロジーサービス事業、コンサルティング部門での自動車業界への研究開発コンサルティング営業、そして最後はIBMリサーチ部門の知的財産ビジネスの営業・契約オペレーションと、様々な職務に従事して参りました。

振り返れば、常にIBMの新しい最先端領域の仕事に携わることができて、沢山の貴重な経験と勉強が出来ました。これまでのIBMというグローバル企業で学んだ様々な経験と築いたネットワークを活かし、本学のグローバル化推進、新時代を拓くグローバル技術者の育成など事業推進の一員として大学の発展に、そして日本や世界に貢献する「お・ん・が・え・し」の場として、この新しい道に進む決心をいたしました。

同窓会には顧問として残り、会長・役員の皆様を支援しながら、ますますの発展に少しでも力になって行きたいと思います。これからも、本学に対する卒業生皆様のご理解とご協力を頂きたい、よろしくお願い申し上げます。

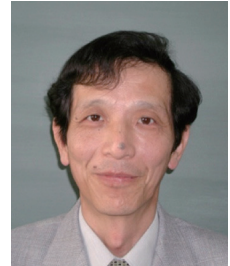
## 「系長より」

機械工学系 系長 北村 健三

旧1系（エネルギー，機械システム工学），旧2系（生産システム工学）の卒業・修了生の皆さん，お元気ですか。毎日お仕事に，また家庭では良き父（母）として，忙しい日々をお過ごしのことと思います。平成24年4月より2年の任期で，旧1系と旧2系が合併した新一系（機械工学系）の2代目系長を務めています。よろしくお祈りします。さて，平成22年4月に新一系（機械工学系）が再編されて早や4年目を迎えました。再編した現在では，学部学生332名，大学院生283名の計615名の学生と，38名の専任教員を擁する本学最大の学科となりました。再編当初に見られた旧系間での学科運営や教育カリキュラムに対する考え方の相違も徐々に解消され，新生「機械工学系」として再発展する素地が整いつつあります。さて，本年（平成25年）夏から秋に掛けて，本学の将来にとって重要な事業が相次いで文科省から採択されました。それらは，「三機関が連携・協働した教育改革」，「研究大学強化促進事業」および「博士課程教育リーディングプログラム」の3つです。これら事業の詳細につきましては，本学HPに詳しく記されていますので，ご関心の方は是非ご覧ください。これら事業の採択により，本学の教育，研究体制はここ数年の間に大きく変貌する可能性があります。加えて，機械工学系が入っているD棟群は，平成25年11月現在耐震改修工事の真っ最中で，連日工事の槌音（騒音？）が高らかに響き渡り，とくに教員居室，学科事務室，ゼミ室などがあるD棟は，工事期間中引越せざるを得ず，かなりの不便を感じています。また，D棟改修と並行して，食堂や売店等の入っている厚生施設も現在改修工事を行っています。平成26年3月にはこれらの工事が全て終わる予定ですので，卒業生の皆さんに

は，4月以降リニューアルしたD棟や厚生棟をぜひ見に来て下さい。なお，3月以前はお勧めできません。このように，技科大は建物の外見だけでなく，研究や教育体制も大きく変化しつつあります。唯一変わらないものがあるとすれば，教職員と卒業生とのつながりでしょうか。

末筆になりましたが，機械工学系の教職員一同，卒業生の皆さんのますますのご活躍とご健康を心よりお祈りしております。





# 学内近況報告

竹市嘉紀，三宅哲夫

卒業生，修了生の皆様におかれましては，ご健勝のことと存じます。既にご存じのとおり，学内再編に伴い2010年度から旧機械システム工学系と旧生産システム工学系が新たに「機械工学系」になりました。この年度に入学した学部1年生（学部3年生は2012年度編入）たちも今や学部4年生となり，それぞれの研究室で卒業研究を行っています。現在，12月の卒業研究発表会に向けてラストスパートといったところです。この学年は，成績順位の付け方から研究室配属の方法まで，あらゆることが新系としてはじめて行うことばかりでした。それぞれの旧系で長年行ってきた方法や考え方が異なる事案も多々あり，その都度すり合わせを行いながら進めてまいりましたが，どうにかこうにか一通りの学部カリキュラムを終える目処が立ってまいりました。せっかく再編を行ったカリキュラムではありますが，実際に進めてみると少しずつ問題点も見えてきて，現在，カリキュラムの修正作業を行っています。来年度からは修正版新カリキュラムで新たに学部1年生，3年生を迎えることになりそうです。

さて，今年度も半ばを過ぎ，アベノミクスの影響が出てきたところと何ら変化ないところと色々あると思います。大学では学生たちの就職活動が大きな影響を受けそうですが，今年度の機械系の就職に関してはまだ劇的な変化はない模様です。来年度あたりから上向いてくれるとありがたいのですが，再来年度からは就職活動の時期がずれ込むことが予想され，この影響が学生たちの研究活動にどう影響するのか，教育現場としては大変気になります。一方，おそらくアベノミクスの影響だと思うのですが，D棟の改修に予算が付き，9月頃から最上階より順に工事が進められています。我々教員も居室の一時立ち退きをしなくてはならず，作業着に着替えてドタバタしている姿がしばしば見られるようになりました。新年度には少しきれいになった部屋でお迎えできると思いますので，お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。なお，並行してA棟（講義棟）ならびに福利厚生施設（食堂，売店等）の改修工事も行われ，これに合わせて理髪店が閉店となりました。卒業生の皆様にも理髪店店主の三浦さんにお世話になった方が結構いらっしゃると思いますので，系の話題ではございませんがこの場をお借りしてお伝えいたします。

教員の近況をお伝えいたしますと，2012年12月に松岡常吉先生が新たに着任されました。2013年4月には戸田裕之先生（旧生産システム工学系）が九州大学に転出なさり，同年7月には今村孝先生が新潟大学にご栄転なさいました。系事務では旧生産システム工学系事務室の小坂和子様から山本知枝様に交代になりました。

昨年度の会報にて，日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を新系として初めて受審するとお伝えいたしましたが，旧生産システム工学系の認定に対して名称変更だけで通ることとなり，現在の学部4年生が新系として初のJABEE認定カリキュラム卒業生として，来春卒業できることとなりました。今後も機械工学系の教育プログラムの改善に対する取り組みを継続してまいります。

末筆ながら，皆様におかれましては今後ともお元気でご活躍されることをお祈り申し上げて，近況報告とさせていただきます。

## 【機械・システムデザインコース】

教授：足立忠晴，河村庄造，柴田隆行，森謙一郎，安田好文（兼務）  
准教授：安部洋平，川島貴弘，竹市嘉紀  
助教：永井萌土，前野智美

## 【材料・生産加工コース】

教授：伊崎昌伸，梅本実，福本昌宏  
准教授：戸高義一，安井利明，小林正和，横山誠二  
講師：徐道源  
助教：笹野順司，山田基宏

## 【システム制御・ロボットコース】

教授：清水良明，章忠，寺嶋一彦，鈴木新一（兼務）  
准教授：内山直樹，三宅哲夫，三好孝典，Batres-Prieto Rafael  
助教：阪口龍彦，佐野滋則，田崎良佑

## 【環境・エネルギーコース】

教授：飯田明由，北村健三，野田進，柳田秀記  
准教授：鈴木孝司，関下信正，中川勝文  
助教：松岡常吉，光石暁彦，横山博史

（平成25年11月現在）



## 着任のごあいさつ

機械工学系 助教 松岡 常吉

2012年12月に機械工学系の助教として着任しました。松岡常吉です。博士課程では北海道大学大学院工学研究科機械宇宙工学専攻でハイブリッドロケットモータの研究に取り組んでいました。修了後は現在に至るまで、その燃焼過程で見られる消炎限界以下での保炎機構の解明や、固体の幾何形状が燃焼速度や火炎の伝播速度におよぼす影響など、さまざまな燃焼現象の基礎研究に興味を持っています。

今でこそ機械工学系に所属して燃焼に関する研究を行っていますが、修士課程まではタンパク質（バイオ工学）の研究をしており、博士課程進学までは流体や伝熱などいわゆる機械系の4力学を学んだことはなく、旋盤やフライス盤なども触ったことがありませんでした。機械工学に移った目的はただ「低コストで安全な宇宙輸送システムを提供し、だれでも簡単に宇宙に行

ける時代を作りたい」という想いからです。

本学では先生方との距離感が近く親身なご指導をいただくことができ、さらには実習工場の優秀なスタッフ、高専出身の熱心で真面目な学生など研究を進める上で素晴らしい環境が揃っています。ここを拠点に私なりの方法で宇宙開発に貢献していきたいと考えています。また、本学の教員として当然ではありますが、本学の理念でもある実践的創造的かつ指導的技術者の育成のため、日頃の研究や講義活動を通じて学生の見本たり得る教員でありたいと考えています。まだまだ未熟者ではございますが、同窓生の皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 研究室だより

### 極限成形システム研究室の近況報告

機械・システムデザインコース 教授 森 謙 一 郎

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成22年度の再編に伴い、生産システム工学系 塑性加工研究室は機械工学系 極限成形システム研究室に生まれ変わりました。現在の研究室では、森謙一郎教授、安部洋平准教授、前野智美助教の教員3名と29名の学生（博士4名、修士16名、学部9名）で構成されています。

当研究室では、“自動車、航空機を中心として極限を超える成形技術”を開発することを目的として研究を行っています。自動車の軽量化に対して高張力鋼板の使用が増加していますが、高張力鋼板のプレス成形では低い形状凍結性、低い延性、大きな成形荷重が問題となっており、それを解決するための新しい冷間プレス成形法を開発しています。また、鋼板を加熱して成形荷重を低下させて延性を向上させ、金型によっ

て急冷して超高強度部材を製造するホットスタンピングが注目されていますが、新しいホットスタンピングを開発しています。この他、増肉プレス成形、ステンレス鋼容器のしごき加工、焼結なし粉末圧粉成形、チタン合金板のプレス成形などの新しい成形法を開発しています。

愛知県は自動車関連産業が盛んであり、自動車部品製造には塑性加工が多く用いられており、研究室においても産学連携研究を積極的に推進しています。産業界から実際的な情報が入ってくる環境にあり、必要性が明らかである研究テーマが多く、学生が企業の技術者と対等にディスカッションをしており、学生の研究に対する意識も高くなっています。卒業生が加工関係の仕事に従事することが多く、実践的技術者として活躍しています。



昨年の11月に森教授が第28回素形材産業技術賞素形材センター会長賞、今年の6月に前野助教が日本塑性加工学会新進賞をそれぞれ受賞しました。

写真は今年7月行った研究室の同窓会の写真です。久しぶりにあった同窓生と楽しい時間を過ごしました。



## 3D/4D マテリアル強度評価研究室の近況報告

材料・生産加工コース 准教授 小林 正和

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。平成22年に学内再編により、新しく機械工学系となった後の現在、3D/4D マテリアル強度評価研究室は、材料・生産加工コースに所属する研究室となりました。多くの研究室同窓生の皆様はご存じのことと思いますが、本年度の4月から、これまで研究室を牽引してこられました戸田裕之教授が豊橋技術科学大学を離れ、九州大学大学院工学研究科 機械工学部門の教授職へとご栄転されました。戸田先生にお世話になったOB・関係者一同にとって、戸田先生が豊橋を去られるのは誠に寂しい話でありましたが、5月11日に小林俊郎名誉教授とOBを発起人とした”戸田裕之先生歓送会並びに同窓会”を実施して、ご栄転をお祝いいたしました。旧材料保証研究室から3D/4D マテリアル強度評価研究室までの50名を超えるOB・関係者（元教員、元秘書など）が一同に会し、戸田先生ご夫妻ともに過ごす笑顔があふれる歓送会となりました。

現在、研究室の教員は准教授小林と日本鉄鋼協会産発プロジェクト展開鉄鋼研究の特任准教授の徐道源の2名で、博士前期課程の学生が10名、学部4年生が8名所属し、合計20名の研究室となっています。なお、戸田先生には、客員教授となっただき、2週に1回程度の頻度で講義および学生指導等に来学していただいております。研究室では、大型放射光施設SPRING-8の放射光を使った材料解析手法の開発およびそれを利用した材料評価、アルミニウム合金および

鋳物の疲労破壊や計算機シミュレーションなどの研究を進めております。最近では、X線が比較的透過し易い軽金属材料だけでなくX線吸収の大きな鉄鋼材料などにおいても高分解能なX線CT画像を得ることができるようになり、また、X線回折を併用することで結晶方位の測定もできるようになっております。内部で生じる変形破壊の直接観察が可能にする放射光を使った材料評価技術は、今後、幅広い材料に活用されると期待できます。活動の詳細は、ホームページ(<http://four-d.me.tut.ac.jp/>)にて公開していきますので、ご覧いただければ幸いです。最後になりましたが卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍を心よりお祈りすると共に、今後も当研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。



## システム制御研究室の近況報告

システム制御・ロボットコース 准教授 三好孝典

卒業生・修了生の皆様、いかにお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場でご健勝のことと存じます。

2013年度の本研究室は、教員3名（寺嶋一彦教授、三好孝典准教授、田崎良佑助教）、学生40名（博士課程6名、修士課程24名、学部8名、研究生2名）で構成されておりますが、研究指導には人間・ロボット共生リサーチセンターから三枝亮特任准教授、エレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）から真下智昭、Dzmitry TSETSERUKOU 両テニユアトラック助教にもご協力頂いております。また研究室の運営に関しては、外山雅恵、藤原早依子両事務補佐員および山本隆技術補佐員、さらにリサーチセンターの運営に関しては佐々木則子秘書にもご参画頂いております。

人間・ロボット共生リサーチセンター (<http://www.robot.tut.ac.jp/>) は、2010年4月1日に寺嶋先生をセンター長として開設されたもので、ロボット分野での最先端の研究成果を活用し、地域の医療機関や企業との連携を図って、ロボット技術開発の発展的実用化・地域への貢献を目指すものです。

当研究室の研究内容は、創設以来の鋳造プロセスの制御に加え、天井クレーン・旋回クレーン・半導体関連装置などの産業機器制御、介護支援をめざした車いすや歩行訓練器、インターネットを活用した遠隔制御

やテレグジスタンス、さらには超音波モータの開発など、多岐にわたっております。詳しくは研究室HP(<http://www.syscon.me.tut.ac.jp/>)をご覧ください。

寺嶋先生は、2012年4月1日より本学の副学長を務められ、現在は福島医科大学特任教授、瀋陽工業大学客員教授も兼任されるなど、大活躍をされておられます。また、教育・研究指導のキーパーソンであった野田善之先生は、2011年11月1日付けにて山梨大学大学院医学工学総合研究部機械システム工学専攻准教授にご栄転され、田崎良佑助教が2012年7月1日から着任されておられます。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様におかれましては、大変お忙しいことと存じますが、豊橋にお越しになる機会がございましたら、ぜひ研究室にお立ち寄りください。次回の研究室同窓会は2015年開催の予定となっております。研究室一同、皆様にお会いできることを心よりお待ちしております。





## 環境エネルギー変換工学研究室の近況報告

環境・エネルギーコース 助教 松岡 常吉

卒業生、修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。現在、当研究室は平成22年度の学内再編に伴って、機械工学系・環境エネルギーコースに所属しております。メンバーはスタッフが2名（野田進教授、松岡常吉助教）、博士後期課程1名、修士課程10名、学部生8名の合計21名で、乱流や固体をキーワードにさまざまな燃焼現象の解明とその応用研究に取り組んでいます。

乱流燃焼としては、たとえば、熱回収による熱効率向上とNOx排出量削減を同時に達成可能な燃焼技術である高温空燃焼をターゲットに、確率密度関数法(PDF法)を用いたモデリングとその小型化や、エンジン内部の火炎制御を目指した燃焼炉内の壁面と火炎との相互作用を解明、旋回噴流燃焼器を用いた次世代燃料の高効率燃焼器の開発などを行っています。一方、固体燃焼としては、ハイブリッドロケットの基礎研究でもある燃料表面上の燃え拡がりの消炎限界の解明や、流路幾何形状の影響、複スリットノズルによる衝突噴流拡散火炎の燃焼場の可視化と燃焼速度予測などに取り組んでいます。また、オープンソースの流体解析ソフトであるOpenFORMをベースにPDF法や固体の燃焼を組み込んだソフトウェアの開発も進めています。これらの研究から得られた成果は、国内外の学会にて発表しています。自分の研究以外についても積極的な学生が多いことも当研究室の特徴です。毎週水曜日の夜には自主的に輪講を開催し関連する分野の知識や情

報を交換・共有しており、また今年度は燃焼学会の主催する勉強会（夏の学校2013）にも参加しました。

学生を主体に研究以外の課外活動も活発に行っています。たとえば、ソフトボール大会への参加（弱いですが）や、院試や卒論、修論発表後の打ち上げと称したBBQ・懇親会などで親睦を深めています。他にも、研究を通じて学んだ知識や技術を遊びにも活用し、蒸気エンジンの効率改善を試してみたり、ポンポン船を作ってレースをしてみたりしています。これらの活動の一部は、研究室のホームページ (<http://www.me.tut.ac.jp/ece/>) に掲載していますので、興味のある方はぜひご覧になってください。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のますますのご活躍をお祈りしますとともに、今後とも環境エネルギー変換工学研究室をご支援くださいますようお願い申し上げます。



## 「系長より」

教授 櫻井庸司

卒業生・修了生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。本年度は学科再編後4年目にあたり、学部1年次から4年次の全ての学年が新教育カリキュラムに移行しました。電気・電子情報工学系においても、3・4年次の所属学生数が100名以上と大幅に増加したことに伴い、必修講義科目の複数教員による担当や、4年次学生の卒業研究報告会を2日間で実施する等の変更を取り入れながら、学生教育に当たっています。

さて、本年度も先生方の異動がございました。まず、情報通信システム分野助教のウリン・トヤ先生が、久留米高専電気電子工学科准教授として転出されました。一方で、後藤太一先生が材料エレクトロニクス分野助教として、川島朋裕先生が機能電気システム分野の助教として、宮路祐一先生、藤枝直輝先生が情報通信システム分野の助教として着任されました。また、飛沢健先生が集積電子システム分野技術専門職員として着任されました。更に、集積電子システム分野の高橋一浩助教が同分野の講師（兼テニュアトラック講師）に昇任されています。

既にご存知の方もおられるかと思いますが、本年度本学は「研究大学強化促進事業」および「博士課程教育リーディングプログラム事業」と研究・教育分野の双方において、大きなプロジェクトに採択されました。

前者は、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強し、我が国全体の研究力の強化を図るため、大学等による研究マネジメント人材群の確保や集中的な研究環境改革等の研究力強化の取組を支援するもので、本学を含めて22機関（大学19、研究機関3）が支援対象機関に選ばれています。本学では、分野や組織の垣根を越え、国内外の企業や研究機関との活発な連携や多様な人材登用により、課題を解決することを目標とした従来の課題解決型工学から、新しい価値を創造することを理念とする価値創造型工学に進化した異分野融合イノベーション研究を推進する拠点の形成を目指し、本事業によってこれを加速する支援体制・環境を整備します。電気・電子情報工学系が強く関与してきたエレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）を研究特区と位置づけ研究力強化に係る支援をスタートし、5年後を目途に全学展開することを目指しています。

後者は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備えグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に適用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的とした事業です。本年度、全区分では62大学102事業の申請があり、15大学18事業が採択され、『複合領域型・

「情報」には11事業の応募があり、本学の申請事業「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」を含む4事業が採択されています。

更に、平成24年度に採択され、長岡技科大、高専機構、本学の三機関連携の下で推進している「国立大学改革強化推進事業」も順調に進展しています。本連携事業において、本学は成長著しいアセアン地域の1つであるマレーシア・ペナンにマレーシア科学大学と共同で海外教育拠点を設置し、日本人学生を「留学生」として現地に送り出し、一定期間教育を実施する事業（海外実務訓練）を強力に推進し、世界的な視野を持つグローバル技術者を育成する事業を展開しています。海外教育拠点（ペナン校）の活動として、平成25年12月4日～5日にかけて開校式と記念シンポジウムを開催しました。また、平成26年1月から2ヵ月間本学の4年生21人が海外実務訓練を行います。

以上の通り、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しておりますが、今後も教職員一丸となり、社会に貢献できる教育研究活動を推進していく所存です。ご支援の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### ◆ 教職員紹介（平成25年12月現在）

#### ＜材料エレクトロニクス分野＞

教授：福田光雄、井上光輝、松田厚範  
准教授：服部和雄、服部敏明、中村雄一、  
武藤浩行、石山 武  
講師：高木宏幸  
助教：河村 剛、石井祐也、後藤太一、  
加藤 亮\*1

#### ＜機能電気システム分野＞

教授：長尾雅行、櫻井庸司、滝川浩史  
准教授：須田善行、村上義信、稲田亮史  
助教：田上英人  
助手：川島朋裕  
技術専門職員：日比美彦

#### ＜集積電子システム分野＞

教授：石田 誠、若原昭浩、澤田和明、  
石井 仁\*2  
准教授：村上裕二、河野剛士、岡田 浩\*3、  
原田八十雄\*2  
講師：関口寛人、高橋一浩  
助教：秋田一平、赤井大輔\*3  
技術専門職員：飛沢健

#### ＜情報通信システム分野＞

教授：大平 孝、市川周一、上原秀幸  
助教：宮路祐一、藤枝直輝

\*1 研究基盤センター、

\*2 テーラーメイドバトンゾーン特任、

\*3 エレクトロニクス先端融合研究所



## 情報通信システム分野の研究室紹介

### <波動工学研究室>

教授：大平孝，秘書：斉藤陽子，博士後期課程1名，博士前期課程10名，学部4年次学生4名

人類が共有できる永久のメディアである「電波」は放送・通信・センシングさらにはエネルギーを伝送する手段として大きく期待されています。当研究室では可変指向性アンテナとその電波応用技術を開拓しています。さらに、培ったICT技術をグリーンイノベーション分野へ活用して、太陽光や風力で発生した直流エネルギーを家庭用交流電力に効率よく変換するインテリジェントパワー技術や、主要幹線道路を電化してどこまでも走り続けることのできる次世代電気自動車の研究も進めています。



大平教授

### <専用計算システム研究室>

教授：市川周一，助教：藤枝直輝，博士前期課程2名，学部4年次4名

本研究室では、専用計算システムを用いた処理の高速化技術やセキュリティ技術について、ハードウェア・ソフトウェアの両面から研究を行っています。ハードウェア面では、FPGA (Field Programmable Gate Array) などの再構成可能論理回路を利用して、制御システム等の高速化・高秘匿化に取り組んでいます。

ソフトウェア面では、マルチコア計算機や並列計算機を高効率に動作させることを目的として、実測に基づいた性能モデリングなどを重点的に研究しています。



市川教授



藤枝助教

### <ワイヤレス通信研究室>

教授：上原秀幸，助教：宮路祐一，博士前期課程14名，学部4年次6名

本研究室では、通信理論、無線信号処理などを基礎技術として、無線アクセス方式とマルチホップ通信による新しいコミュニケーションの実現を目指しています。具体的には、センサネットワークやアドホックネットワークなどの自律分散システムにおいて、有限の無線資源を有効に共有するためのアクセス制御や協調して

接続するためのネットワーク制御技術の研究を進めています。さらに、あらゆるデバイスのケーブルフリーを実現するワイヤレス電力伝送の研究も推進しています。



上原教授



宮路助教

\*情報通信システム分野のポータルサイト <http://www.comm.ee.tut.ac.jp/>

# サザンプトン大学滞在報告

電気・電子情報工学系 機能電気システム分野 准教授 村上 義信

2012年3月より2013年2月まで、豊橋技術科学大学若手研究者育成プログラムの元、英国・サザンプトン大学に University Visitor として滞在する機会を与えられましたのでその滞在記をご報告させていただきます。



サザンプトンとはロンドンから南南西に約80マイル離れた港街であり、かの有名なタイタニック号が出向した港として有名です。サザンプトン大学（通称 Soton）は1862年に前身となる Hartly 研究所が設立され、1952年に大学としての道を歩み始めており、現在、8つの学部、総合病院、研究所等からなっています（学生数約27,000名、教職員数約5,000名）。私の所属する Tony Davies High Voltage Laboratory (TDHVL) は私のホストリサーチャーである G. Chen 教授をはじめとする教員7名、PhD. Student 25名、Postgraduate Student 32名、研究スタッフ、技術スタッフ、私のような Visitor 計12名、事務局員からなっていました。

TDHVLで行われている研究テーマとしては電力ネットワークにおける Condition Monitoring および Environment Monitoring、高温超電導電力機器、液体および固体の誘電特性、表面電荷および内部蓄積電荷等でした。私が実施した研究は固体の内部蓄積電荷に関する研究であり、私のもつ高電界測定技術（高電界におけるパラメータの取得）と G.Chen 教授らのもつ内部蓄積電荷のシミュレーションモデルを融合し、新たな電荷蓄積モデルを確立することを目標に研究を進めてきました。実験室に入るため、実験室内の装置を使うため、ねじを切るためなど様々の講習を受ける必要があったため時間を要しました。それから実験にとりかかり、何とか国際会議に投稿できるまでの成果を得ることができました。

海外生活を始めるにあたって重要となる項目の一つ

に宿泊場所の選定があります。事前に Chen 教授から推薦されたホームページで物件を探し、契約を結んでいた私の場合は何ら苦労なく Studio Flat（キッチンとベットルームが扉で仕切られる日本の1Kアパートのようなもの）に入居することができました。渡英前、イギリスの物価は高く、付加価値税 VAT も20%であることから少々心配してはいましたが、実際に暮らしてみると食品の税率は0%であり、筆者が VAT の支払を意識したのはホテルでの宿泊、保険契約、外食、本の購入、薬の購入ぐらいでした（基本 include なので筆者が気付かないうちに支払っていた可能性は多いに有ると思います）。筆者の感想としては為替レート、物にもよるが日本より平均して1-2割程度物価が高いと感じたが、Private Bland (PB) や Low Cost Carrier (LCC) の発症の地ということもあり、イギリスの物価は安いものより安く、高いものは高いという2極化が進んでいるように感じました。通常の PB 商品は既製品の50%ぐらいの価格設定であるが、価格競争には限界があるため既成品の80%ぐらいの値段の商品の開発が進んでいるようでした。VATが高いせいかどうかはわからないが現地の人はエネルギーをあまり消費しない、物を大事に使うように感じました。24時間営業のコンビニはほとんどなく、町の中心部であっても夜は暗く、大学においても同一フロアの教職員および PhD 学生の計30名程度が年期の入ったプリンター2台を皆で使用しており、それが普通であることには驚かされました。基本的に地元の人にはフレンドリーで、バス停でバスを待っているときなどはよく話しかけられ、話になり夢中になりバスが通りすぎた（手を挙げて主張しないと止まらない。Request Stop）ことも度々ありました。また、タバコの吸い殻やゴミのポイ捨ては若者を中心によく見かけましたが、その若者達はバスや地下鉄の中ではお年寄りなどが乗ってくると必ずと言っていいほどだれかが席をゆずります。このように文化の違いに



は最初は少々戸惑いましたが、日本とは異なったゆっくりとした時間をもち、個人と物と伝統を大切にすることを習慣を持ったイギリスでの生活は筆者にとって新鮮であり、いろいろと考えさせられるものがありました。

最後に筆者の訪問を快くお引き受け頂き、いろいろとご尽力頂きました Geroge Chen 教授、実験装置



現在も図書館として利用されている Hartly 研究所の建物と大学開学 60 周年を記念したモニュメント

の使い方の講習等を実施して頂きました TDHVL の皆様、私の在外研修中に仕事を分担して頂きました長尾雅行教授、栗本宗明助教（現名古屋大学）を初めとする豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系の皆様、同大学関係者各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。



The Tony Davies High Voltage Laboratory.

## スピン・エレクトロニクスグループの近況

博士後期課程 1 年 橋 本 良 介

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。我々「スピン・エレクトロニクスグループ」は現在、井上光輝教授、中村雄一准教授、Lim Pang Boey 准教授、高木宏幸講師、後藤太一助教の教員 5 名、山本ゆみこ秘書、および学生 27 名（博士後期課程 2 名、博士前期課程 11 名、学部 14 名）で構成されております。

当研究室では、磁気工学（スピントロニクス）を中核に、光、高周波電磁界、超音波、熱、電子伝導などとの相互作用を駆使し、基礎的な材料開発からデバイス・システム応用に渡る広い範囲で、オリジナリティあふれる研究を行っています。

近年では、磁性フォトニック結晶の高い機能性に着目し、磁気ホログラムメディアの高性能化や 3 次元ディスプレイの開発を行っています。特に、磁気光学空間光変調器の研究から発展した高輝度広視野角 3 次元ディスプレイの開発では、磁性体に記録されたホ

ログラムによる 3 次元像の表示を世界で初めて実現し、国内外から高い評価を頂いております。

また、マグノニック結晶を用いた高感度磁界センサの開発を行い、脳が生み出す生体磁場の測定を目指して研究しております。

スピンの伝達を利用した電荷非輸送型の情報処理デバイスの開発を行っています。電荷を移動させない、低損失な次世代情報処理技術の開発を行っております。

さらには、排熱エネルギーの再利用などで使われる熱電変換材料の開発をしています。磁性体と、熱や電気を融合した研究を行っています。近年では、熱とスピンを応用した発電技術の開発を目指しております。

研究室のイベントとしましては、恒例の研究室旅行や春の遠足に加えて、今年は学部 4 年生の中間報告を兼ねたポスター発表を行い、食事をしながら活発な議論を行いました。研究成果や近況については研究室のウェブページ (<http://www.spin.ee.tut.ac.jp/>)

index.html) にて、公開しておりますので、是非ご覧ください。

ご多用中のことと存じますが、豊橋にお近づきの際には、お気軽に研究室へとお立ち寄りください。研究

室員一同、心よりお待ちしております。先輩方の貴重なお話しをお伺いできれば幸甚です。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を研究室一同、心よりお祈りしています。



## クリーンエネルギー変換研究室の近況報告

博士前期課程1年 大木 秀晃

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在、クリーンエネルギー変換研究室は、2011年4月に新設された稲田亮史准教授の研究室と合流し、現在は修士15名、学部9名の計24名で日々研究に励んでおります。また、本研究室設立時から所属され、研究室の立ち上げ・運営にご尽力いただいた千坂光陽助教は2012年4月に弘前大学理工学部電子情報工学科に異動されました。

2011年3月に発生した東日本大震災を経て、再生可能エネルギーへの期待が高まる今日、高エネルギー密度で長寿命な二次電池が必須であり、その根幹を成す新しい材料・プロセス・評価技術の研究開発が重要になっています。さらに電気自動車等のクリーンビークルや小型情報端末等の利用分野での利用も見据え、これら電気化学エネルギー変換デバイスの高性能化・低コスト化・高信頼化に資する研究開発を幅広く展開しています。

とりわけ以下の4つのテーマを中心とした研究に

取り組んでいます。

- (1) 次世代型リチウムイオン電池の研究
- (2) 多価イオン電池の研究
- (3) 全固体リチウムイオン電池の研究
- (4) 電池に関する新規計測技術の研究

研究室の行事としましては、春には新4年生歓迎会、冬には忘年会を開催しております。また昨年度から櫻井・稲田杯として研究室全体でボーリング大会を開催しています。今年9月に第二回大会を開催しましたが、先輩や後輩、さらには先生という垣根を越えて大いに盛り上がりました。研究室内の親睦を深めることを目的としていますので、今後もこのような行事が増えることを願っています。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や現在の職場の経験談などの貴重なお話を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。





## ICG の近況報告

博士後期課程 1年 岡 部 謙 志

本学卒業生並びに修了生の皆、いかがお過ごしでしょうか。皆様方におかれましては、大学で得た知識と経験を糧にますます御活躍のことと思います。

本研究室では、半導体技術を基にした様々なセンサデバイスや回路の設計、製作、評価を行っております。特にクリーンルームを所有する本学ならではの特徴を活かして、センサと CMOS 回路の一体化や、新たなセンサ・MEMS デバイスの製作プロセスの開発など、異分野融合に向けた研究に日々取り組んでおります。加えまして研究活動として得られた成果を皆様にご覧いただくためにも、学会等で御報告できる機会を増やしたいと思っております。すでに御存知の方も居られると思いますが、豊橋技術科学大学は今年度文科省より研究大学強化促進事業の支援対象として認定されました。我々研究員の教員、学生としても喜ぶ一方で今後はより緊張感を持って研究に励みたいと思います。

集積電子システムコースの研究グループは今や多くの教員、スタッフ、学生で構成されております。この大所帯で新入生歓迎会を始めとする夏旅行や忘年会などのイベントを通して息抜きをすることにより、気持ちを切り替えて研究に取り組んでおります。中でも毎年計画されておりますデバイススキー旅行は、諸先輩方の社会人としての体験談並びにアドバイスを頂ける貴重な機会であるため、多くの方の参加を望んでおります。

卒業生並びに修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。また研究室の活動内容は web サイト (<http://www.int.ee.tut.ac.jp/icg/wp/blog/>) に公開しておりますので、お時間のある時に目を通していただくと幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の益々の御活躍、発展を心よりお祈り申し上げます。



## 学内近況報告

情報・知能工学系 系長 三浦 純

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本学では平成22年4月に学部と大学院が同時に再編を行いました。新系としての博士前期課程（修士課程）はすでに2回の修了生を送り出していますが、来年3月には初めての学部卒業生を送り出し、これで再編もほぼ完成となります。今後、母体となった情報工学系（旧4系）と知識情報工学系（旧7系）の融合もさらに進んでいくことと思います。

情報・知能工学系は情報処理に関わる基礎から最先端に至る幅広い技術科学の教育と研究を任務としています。研究分野は、基礎をなす「計算機学」と幅広い応用をカバーする「メディア情報学」「知能情報学」「情報ネットワーク学」の計4つで構成されています。2つの旧系の研究分野の大半を引き継ぎ、近年特に加速しつつある情報処理関連分野の広がりに対応できる体制となっています。一方、教育では「情報工学コース」と「知能情報システムコース」の2コースを導入し、幅広い知識とともに特定の分野についてはより深く学ぶ機会を提供しています。ただし、学生は所属コースに関係なく、各自の興味と意欲に応じて希望する分野の研究室に所属することができます。新系の詳細につきましてはホームページ (<http://www.cs.tut.ac.jp/>) をご参照頂ければと存じます。

昨年の本報告では情報・知能工学系に関係の深い全学プロジェクトとして「次世代シミュレーション技術者教育プログラムの開発」が開始したとお伝えいたしました。今年度から本学では、さらに多くの事業・プロジェクトが始まっていますが、博士課程教育リーディングプログラム「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」など当系に関連

の深いものもあり、本学のさらなる発展への貢献が期待されています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。本年3月末に墨智成助教が岡山大学理学部准教授として、永井岳大助教が山形大学工学部准教授として、そして本年9月末に志賀元記助教が岐阜大学工学部テニユアトラック助教として、それぞれ転出されました。一方、本年4月にはメディア情報学分野に立間淳司助教と小林暁雄助教が、そして本年10月には知能情報学分野に齋藤暁助教が着任されました。また、高専・両技科大教員交流制度にて、本年3月末に佐々和洋助教が福井高専に戻られ、4月には岩崎洋平准教授が熊本高専から着任されました。

情報処理技術は、スマートフォンなどの情報機器やインターネットなどの情報システムだけではなく、自動車や電力システムなどの関連分野も含め、社会の隅々にまで浸透し、その重要度は今後ますます高まるものと思います。情報・知能工学系では今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うべく一層努力して参りたいと存じます。同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。



教職員一覧及び学生現員（平成 25 年 10 月現在）

【メディア情報学分野】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索, データマイニング
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア
中川 聖一	教授	知能情報学
増山 繁	教授	自然言語処理, Webマイニング, アルゴリズム工学
三浦 純	教授	知能ロボティクス
秋葉 友良	准教授	知能情報学
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン, 画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
山本 一公*	准教授	音声言語情報処理
小林 暁雄	助教	自然言語処理, データマイニング
佐竹 純二	助教	画像処理, パターン認識
神納 貴生	助教	画像信号処理
立間 淳司	助教	情報検索, パターン認識
デシルバ ラビンドラ	助教	社会的ロボティクス, 人-ロボット間での対人距離, ユーザモデル, 対人関係の微調整

【知能情報学分野】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学, 情報生命学
関野 秀男	教授	計算科学
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
堀川 順生	教授	神経科学, 聴覚情報処理
北崎 充晃	准教授	心理物理学, 認知神経学
栗田 典之	准教授	量子生物学, 計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学, ハイパフォーマンスコンピューティング
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
加藤 博明	講師	分子生命情報学
齋藤 暁	助教	数値計算, 量子情報処理
杉本 俊二	助教	神経科学
原田 耕治	助教	免疫システム科学, 複雑系

【計算機学分野・情報ネットワーク学分野】

氏名	職名	専門分野
梅村 恭司	教授	情報工学
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング, システムソフトウェア
小林良太郎	講師	計算機工学
相田 慎	助教	計算量理論
藤原 洋志	助教	アルゴリズム, オンライン最適化

【兼務】

井佐原 均（情報メディア基盤センター 教授）  
 大平 孝（電気・電子情報工学系 教授）  
 市川 周一（電気・電子情報工学系 准教授）  
 上原 秀幸（電気・電子情報工学系 准教授）  
 桂田 浩一（国際交流センター 准教授）  
 岡部 正幸（情報メディア基盤センター 助教）  
 土屋 雅稔（情報メディア基盤センター 助教）  
 \*豊田高専所属：H25年度高専・両技科大教員交流。

【事務関係】

事務職員：加藤 恵子, 丸山 利美, 関 美知代  
 （C棟事務室（新2系と共通））  
 宮崎 早苗, 古屋 陽子（F棟事務室）  
 技術職員：宮脇 治雄, 片岡 嘉孝, 小西 和孝

【学生現員】

学 部：1年次 16名, 2年次 12名,  
 3年次 110名, 4年次 101名  
 修 士：1年次 90名, 2年次 116名



## 新任教員より

情報・知能工学系（青野研究室）助教 立間 淳司

2013年4月1日付で情報・知能工学系に助教として着任した立間淳司です。本学電子・情報工学専攻（知識データ工学・情報検索研究室）にて学位を取得しました。本学修士課程情報工学専攻を修了後、一度企業に就職したのですが、3年前に博士後期課程へと出戻り、グローバルCOEや日本学術振興会の研究員をしながら、なんとか博士号を取得しました。



写真は、最近発掘した、修士課程に在籍していた頃のもので、自分でも驚くほどに変化がありませんでしたので、そのまま載せることにしました。研究分野

も変わらず、三次元物体の形状類似検索を中心として、情報検索・パターン認識の研究を行っています。情報検索は、すでに技術として完成しているように感じますが、たくさんあるデータをどのようにして高速に検索するか、利用者の主観をどうやって検索結果に反映させるかなど、まだまだ多くの課題があります。

着任から半年が経ちましたが、まだまだ不慣れな事が多く、青野先生をはじめ教員の皆様へ、ご迷惑とご心配をお掛けしています。教育・研究活動を通じて、学生とともに成長していければと考えています。卒業生・修了生の皆様、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



## 新任教員より

情報・知能工学系（増山研究室）助教 小林 暁雄

2013年4月1日付けで、情報・知能工学系の助教として着任しました小林暁雄と申します。平成19年3月に豊橋技術科学大学知識情報工学課程(旧7系)を修了した後、知識情報工学専攻、電子・情報工学専攻と、豊橋技術科学大学にて学生生活を過ごして参りました。その後、平成24年6月より研究員として本学にて勤務した後、助教として着任致しました。このように、学生時代からずっと本学で過ごしてきたため、学生気分が抜けきっておらず、周囲の先生方や学生・事務の方々にいろいろと助けて頂きながら、何とか半年間大きな問題もなく過ごすことができました。



研究につきましては、学生時代から自然言語処理分野の研究に従事してまいりました。特に、様々な応用研究の精度向上に欠かせない、機械可読なシソーラス（語彙の辞書）の構築、あるいは拡張する研究を中心に行って参りました。具体的には、人間が読むために作られた、世界最大の百科事典である Wikipedia か

ら、機械可読なシソーラスを構築するために必要な情報を自動的に抽出し、シソーラスの構築または拡張を自動的に行う手法について重点的に研究を行って参りました。現在は、ウェブ上からデータを抽出するウェブマイニング技術によって、特定分野の語彙を抽出し、辞書の形式にまとめ上げる研究に興味を持っています。特に、農業関連分野の辞書構築手法について研究を行っております。この研究では、農家の方や農協のウェブサイト、あるいは農産物の販売サイトなどといった、統一されていないウェブサイトから、自動的にデータをマイニングを行い、農業関連分野に従事していない方でも理解しやすく、かつ既存の辞書にはない、農家独自の品種や生産のための工夫などについての情報が収録された辞書を自動構築することを目的としております。東三河地方は一大農業地帯ですので、この研究を通して地域貢献もできれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。





## 新任教員より

### 空腹感とハングリー精神

情報・知能工学系（関野研究室）助教 齋藤 暁

長く続く上り坂を彼は一步一步ペダルを踏み込んで登っていく。大根畑とキャベツ畑に挟まれたこの細い農道が大学への近道である。朝日を睨みながら風を受けて進んでいると様々な考えがとりとめなく浮かんで鱗雲とともに流れていく。大根の葉の青々としてなんと美しいことか。先程朝食を摂ったばかりというのに早くも食い意地が頭をもたげてきた。

10月1日、着任の日、彼は食堂の前で呆然と一時閉鎖の告知を見ていた。豊橋技科大の食堂は来年の4月まで半年間開かない。赴任早々に難儀なことになった。彼は大食漢である。腹の虫が職務遂行上の最大の敵になるのは想像に難くなかった。

仮設の売店には厨房が無い。毎日大量の弁当が積まれ、またたくまに売れ、あつというまに大量のプラスチックゴミの山となって消費されていく。弁当箱に入るカロリー量はたかが知れている。いったい食べ盛りの学生達はあの程度で空腹を満たせるのだろうか。彼には到底無理である。あまりにお腹が空くので、とうとう弁当は2つ買うようになった。もともと、彼は特大の弁当箱を持っているのだが、なかなか弁当を作る余裕がないようである。

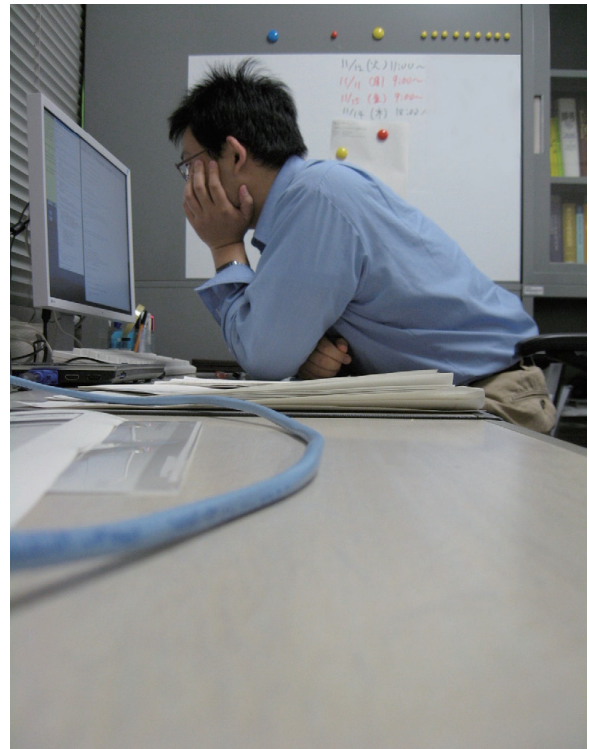
いまだかつてない、満腹感と無縁の生活が一ヶ月ほど続いた後、彼は浴室で鏡に映る自分に浮き出たあばら骨を認めて驚愕した。たった一ヶ月でここまで変わるものか。そういえば自転車も前よりも楽にこげるようになったし、ズボンはすべてぶかぶかになっていた。

次第に新しい環境にもなれてきた彼は、ようやく自らの研究に取り組む余裕を持てるようになった。計算に没頭していた彼がふと外を見ると、すでに闇の帳が田畑を包み込んでいる。彼は階段を駆け下りて颯爽と自転車にまたがり、暗緑色の大地を見下ろした。坂道を一気に下っていく。ライトにキャベツが浮かんでは消えていく。晩ご飯はお好み焼きにしようと思った。

なお、私は実際には彼とは違ってバス通勤であるし、そんなに食い意地が張ってはいない。

平成25年10月1日付けで、情報・知能工学系の計算科学研究室（関野研究室）に助教として着任致しました、齋藤です。これまでは量子情報分野で数値的および数理的な研究をしておりました。平成19年3月に大阪大学大学院基礎工学研究科で学位を取得した後、ポスドクとして複数の機関で研究を続けてきましたが、今回、ようやく教員ポストにつくことができました。といっても2年半の任期ではありますが、精一杯教育と研究に努める所存です。赴任後はこれまでの研究に加えて、関野研究室の主要な研究題材である密度汎関数法による計算量子化学にも取り組んでいます。

豊橋技術科学大学はカルテック（カリフォルニア工科大学）を目指していると聞いています。私もその心意気に倣って、先端的研究を追求したいと考えています。

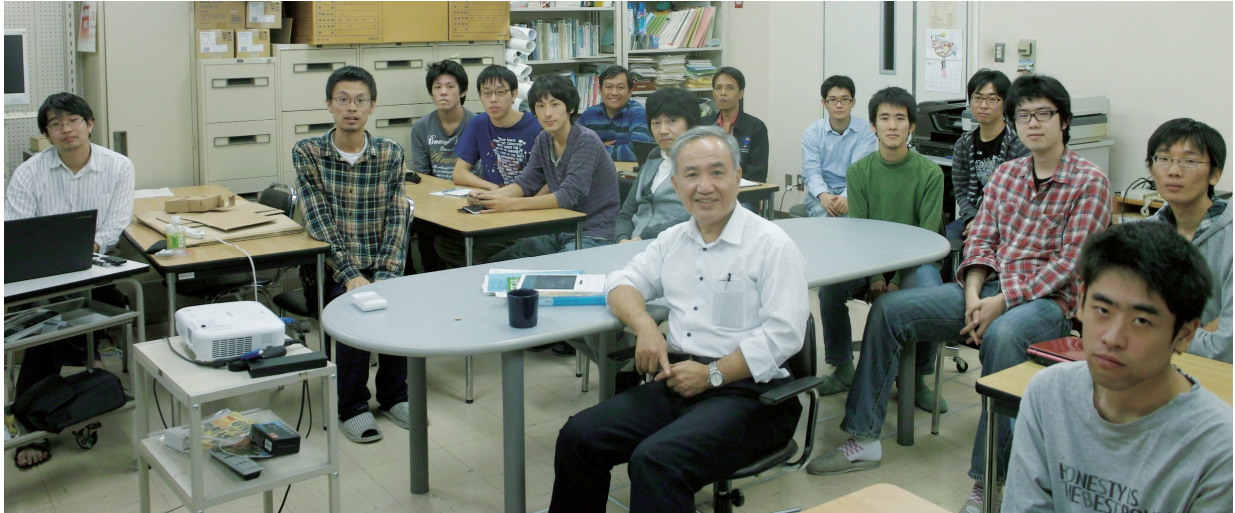




## 研究室だより

### 石田研究室の近況

電子・情報工学専攻 博士3年 勝又裕士



修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに御活躍されていることと存じます。今回は石田研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在の研究室は石田好輝教授と原田耕治助教の御指導のもと、博士3名、修士10名、学士4名の総勢16名で活動しています。これまで本研究室では複雑系や免疫系を主とした研究が多く行われてきましたが、現在では(1)セルオートマトンやマルチエージェントを用いたシミュレーション、(2)安定結婚問題の問題や解に対する研究、(3)ARによるダイアグラム支援など、複雑系を主とした多岐にわたるテーマに取り組んでいます。

研究室の活動としては週一回の定例会があり、研究の進捗報告を約1カ月毎に行い議論を交え研究に邁進しております。定例会のほか、研究の分野によっては学生同士の自主ゼミが開かれており、自身の研究に関連する論文の紹介を行っています。また、新入生歓迎会や卒論・修論のお疲れ会、追い出し会も恒例イベン

トとして開催されており研究室メンバー間の親睦を深めています。さらに夏季休暇には研究室の学生有志による一泊二日の研究室旅行も行っており、学生間の深いつながりも生まれております。

対外的な活動の場として国際会議発表なども引き続き行っていますが、最近ではオープンキャンパス・技科大祭での研究室公開や、豊橋近郊で開催される講演会やワークショップへの研究室としての参加・修士学生以上による発表など、外部イベントの充実が進みアクティビティが向上しております。

最後になりましたが、豊橋近辺へ来られる際には是非本研究室にお越しください。そして、社会で得た経験や知識などを学生へフィードバックして頂ければ幸いです。石田研究室一同、心からお待ちいたしております。また研究室の状況はweb (<http://www.sys.cs.tut.ac.jp/>)でも公開しております。ご覧ください。皆様の今後の更なるご活躍を心からお祈りしております。



## 中川研究室の近況

情報・知能工学専攻 修士2年 藤堂 祐樹



卒業生、修了生、また中川研究室のOB・OGの方々、いかがお過ごしでしょうか。今年度、中川教授がご退職されるため、『中川研究室』としてはこれが最後の研究室だよりとなります。

今年、本研究室では、博士2名、修士5名、学部5名の計12名が中川聖一教授、山本一公准教授（平成25年度は豊田高専に1年間出向）、土屋雅稔助教のご指導の下、日々研究に励んできました。また、自然言語処理研究室（秋葉研究室）とは公私ともに協力しながら、時に励まし合い、お互い切磋琢磨を続けています（写真は研究室旅行・山梨県、みずがき山登山口）。

本研究室では、音声言語に関連した研究を幅広く行っています。音声言語は、人間とコンピュータとの画期的なインターフェースとして期待され、最近では音声認識、音声合成の技術が広く商業的に知られるようになってきました。現在の主要な研究テーマとしては、高速・高精度な大語彙連続音声認識システム、講義ビデオの自動字幕化と自動翻訳、プライバシー情報の自動除去、使って楽しい雑談対話システムの開発などがあります。私見ですが、毎年オープンキャンパスや高校生のラボツアーで、一般の方と接するに辺り、『音声認識』の説明が楽になってきたと感じています。それだけ社会に広まりつつある技術であり、同時に、一般の方々の目が肥えてきたかな、とも思います。

今年度の夏は、忙しい時期となりました。8月に東

海地区音声関連研究室修論中間発表会、9月に日本音響学会秋季研究発表会（実行委員長：中川聖一教授）が技科大で開催され、本研究室の教員・学生も運営に尽力しました。中間発表会では、中川研の学生らが余興で行った『音声認識クイズ』が大変好評となり、ぜひ次回の発表会でもやってみようとの言葉を頂きました。秋季研究発表会では、特別イベントとして豊橋伝統の手筒花火を教員・学生が自ら打ち上げ、大勢の参加者から反響を得ました。もちろん研究発表も平行して行いましたので、忙しくも充実した時期だったと感じます（音響学会：発表7人）

研究室にある資料を紐解くと、中川研究室は33年の歴史があります。豊橋技科大の開校が37年前ですから、いかに長いあいだ、中川研究室が技科大や日本の研究をリードしてきたのかがわかります。その長い歴史も、中川研究室OB・OGの方々1人1人が努力をしてこられた結果だと推測します。そして何より、中川聖一教授のご熱心な指導があったからこそです。中川教授のこれからのご健康とご活躍を心よりお祈りしています。

来年から私たちは、山本准教授のもと、気持ちも新たに研究に励んでいきます。これまでの諸先輩方に負けないよう、精一杯がんばりますので、お近くにお越しの際はどうぞ気軽に研究室にお立ち寄りください。



## 学内近況報告

環境・生命工学系 系長 伊津野 真一

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年この欄でもお伝えしたように、学内再編を学年進行で進め、環境・生命工学課程に入学した新入生も今年で学部4年生となっています。12月末には、環境・生命工学課程としての初めての卒業研究発表会を行うことができました。卒業生の皆様には、物質工学課程、エコロジー工学課程の懐かしい課程名がなくなることで、さびしい思いをされることもあるかと思いますが、それぞれの課程はそのまま、環境・生命工学課程にしっかりと引き継がれていますのでご安心ください。環境・生命工学課程の卒業研究発表会は、2つのコース（生命・物質コースと未来環境コース）に分かれて行いました。これは必ずしも物質工学課程とエコロジー工学課程に対応するものではなく、それぞれの専門領域の内容によって2つのコースを自由に選択できるようになっています。私自身は、生命・物質コースに所属しているため、このコースの卒業研究発表会にのみ出席しましたが、1日半にわたる発表会では、活発な議論が繰り広げられ、熱気を感じました。これからほとんどの4年生は、実務訓練後、大学院に進学しますが、大学院での活躍が楽しみです。

卒業研究発表会が終わると次は、修士論文の審査会です。審査会に先立って予備審査会を実施することになっています。旧課程では、各研究室単位でしっかりやっていたわけですが、複数の研究室で予備審査会を実施することで、各研究室の中だけでは見つけられなかった問題点などを洗い出す機会として予備審査会を位置づけています。

博士後期課程も、博士前期課程と同様に5専攻となり、環境・生命工学専攻がスタートしています。旧専攻である機能材料工学専攻、旧環境・生命工学専攻所属の学生が修了するまでは、旧専攻も続きます。博士後期課程についても学内での経済的な支援制度などが充実し、学位取得に向けて環境がかなり整備されています。さらに、今年度本学は、「博士課程教育リーディングプログラム」に採択され、博士課程の一層の充実が図られています。本プログラムの概要については、本学ホームページをご覧ください。

本学ホームページには、今年度本学が獲得した3つの大型プロジェクトが掲載されていますが、そのうち



の一つが、国立大学改革強化推進事業として採択された「三機関が連携・協働した教育改革」です。三機関とは、本学、長岡技術科学大学、そして高専機構です。この事業の一環として本学は、マレーシアにペナンキャンパスを開校しました。これまでもマレーシアの留学生は非常に多かったのですが、今後ますます交流が深まるものと思われます。詳細についてはホームページをご覧ください。もう一つの大型プロジェクトは「研究大学強化促進事業」で、全国で2機関が採択されています。中部地区では、本学と名古屋大学が採択されています。本学は今後ますます研究大学としての重要な役割を担っていくこととなります。

環境・生命工学系の教員の陣容も今年度は変化がありました。生命工学分野に沼野利佳先生、分子機能化学分野に手老龍吾先生がいずれもエレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)のテニユアトラック教員から環境・生命工学系准教授として採用されました。また柴富先生も分子機能化学分野の准教授に昇任されています。生命工学分野では、EIIRISの特任助教から広瀬有先生が環境・生命工学系助教に採用され、浴先生の研究室で研究を開始されます。分子機能化学分野の原口先生は、平成26年度高専-豊橋技術科学大学交流で1年間豊田高専にて教育研究活動を行う予定です。一方で、環境・生命工学系を離れる先生方もおられます。2014年3月末で、菊池先生、竹市先生のお二人が定年を迎えられます。ホームページ等で、最終講義のご案内をさせていただきます。また、大門先生は、学内での異動ですが、国際交流センターに移られました。ただし、引き続き環境・生命工学系の兼務教員として研究、教育にご協力いただくことになっています。現在の環境・生命工学系研究室一覧については、表にまとめてありますので、ご参照ください。本学の学長および執行部も今年度末で任期を迎えます。平成26年度は新しい体制でのスタートとなります。

以上のように大学の組織は再編により大きく変わりました。さらに環境・生命工学系の教員の異動もあり、新しい研究、教育体制ができてつつあります。環境・生命工学系は、高専物質系の受け皿としての機能は残しつつ、環境、生命を柱に多彩な領域をカバーする複合学科としてスタートしました。我々は環境・生命工学系をより一層高いレベルへと発展させていかなければなりません。卒業生の皆様におかれましても、新しい環境・生命工学系をぜひご支援いただければ幸いです。

環境・生命工学系 教職員名簿

H25年11月1日現在

本務教員			兼務教員			
コース名・分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教員名	
未来環境工学コース	センシング応用研究室	田中 三郎 教授	研究基盤センター	無機材料解析研究室	中野 裕美 教授	
		廿日出 好 准教授	総合教育院	無機材料物性評価・応用研究室	大串 達夫 教授	
	機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授	電気・電子情報工学	機能性材料科学研究室	松田 厚範 教授 (河村 剛 助教)	
	静電気応用研究室	水野 彰 教授		電気分析化学研究室	服部 敏明 准教授	
		栗田 弘史 助教		プロセス・評価解析研究室	武藤 浩行 准教授	
		安田 八郎 助手				
	高島 和則 准教授					
	反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授				
	機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 准教授				
	無機材料物性評価・応用研究室	佐藤 裕久 助教				
	生態工学分野	環境触媒化学・資源再生化学研究室	角田 範義 教授	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授
			大北 博宣 助手			
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師			
	持続社会工学研究室	後藤 尚弘 准教授				
生命工学分野 生命物質工学コース	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授	体育保健センター	運動生化学研究室	佐久間 邦弘 准教授	
		広瀬 侑 助教	情報・知能工学	聴覚情報研究室	堀川 順生 教授	
	生命科学研究室	菊池 洋 教授		計算化学研究室	後藤 仁志 准教授	
		梅影 創 講師	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授	
	生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 准教授	建築・都市システム工学	水環境工学研究室	井上 隆信 教授	
	生物機能工学研究室	平石 明 教授				
		山田 剛史 助教				
	遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授				
	生体分子工学研究室	吉田 絵里 准教授				
	生命機能科学研究室	吉田 祥子 講師				
	分子機能化学分野	高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授			
			原口 直樹 助教			
			藤澤 郁英 助手			
		複合機能材料研究室	竹市 力 教授			
		生分解性高分子材料研究室	辻 秀人 教授			
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授			
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授			
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 准教授			
分離分析化学研究室		平田 幸夫 准教授				
界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授					
環境・生命工学系事務室	B棟事務室	小倉 典子	技術専門職員	太田 初一		
	G棟事務室	岡 沙佑美		齊藤 年秀		
		坂上 千恵子		坂井 悦子		



## 研究室だより

### 田中・廿日出研究室

修士1年生 山本将彰

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。では、田中三郎・廿日出研究室の近況について御報告させていただきます。

現在、田中三郎・廿日出研究室は田中三郎教授、廿日出好准教授以下、研究員2名、修士10名、学部生5名の計19名です。現在の研究テーマは異物検査応用、NMR/MRI、MPI、非破壊検査に分けられています。センサには主にSQUID磁気センサを用いています。

- ① 異物検査応用では、異物検査用機器を開発する研究を行っています。工場内の製造工程において、異物が混入することは事故や信用低下の原因となってしまう。そこで特に問題となる金属異物を取り除く異物検査装置の開発を行っています。
- ② NMR/MRIではNMR/MRIによる食品異物検査、また磁気シールドルームなしでNMR/MRI計測を行うことを検討しています。食品異物検査では、X線の異物検査装置では難しい虫や毛髪もNMR/MRI技術を用いれば検出できる可能性があります。また磁気シールドルームを使ったNMR/MRI装置では設置できる場所が限られ、また高価であるため、磁気シールドルームなしでNMR/MRI計測をすることを目的としています。
- ③ MPIは磁気ナノ粒子を癌細胞等に付着させ、ナノ粒子からの磁化応答を磁気センサで取得し画像化するものです。この技術の特徴として、理論的な感度はMRIと比べ高感度であることが挙げられます。現在MPIの感度を上げる研究行っており、将来的には、SQUIDとMPI技術を組み合わせることによって、高精度かつ高分解能で磁性微粒子を検出・

画像化する技術の開発を目標としています。

- ④ 非破壊検査応用では、電力施設、工場の配管や飛行機などで使われるCFRPなどを対象とした、非破壊検査について研究しています。これらの対象物に欠陥が生じた場合、重大な事故を引き起こす要因となるため高精度かつ、高感度な非破壊検査技術が求められています。よって高空間分解能・高感度特性をもったSQUIDと3次元検査のためのロボットアームを用いた非破壊検査を研究しています。

さて、恒例の研究室旅行ですが、今年度は知多半島の方に行ってまいりました。海近くのキャンプ場で一泊し、魚釣り、海水浴、水族館、バーベキューなど一同、親睦を深めあいました。

最後になりますが、豊橋の近くにお越しになったときはぜひ研究室にお立ち寄りください。田中三郎・廿日出研究室一同お待ちしております。卒業生、修了生の皆様のこれからますますの御活躍を心からお祈りしています。



### 角田・大北研究室

修士一年 近藤将大

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場にて日々ご健勝のことと存じます。4年前の大学再編に伴い当研究室は旧物質工学系から環境・生命工学系になり、今では学部生、大学院生全員が環境・生命工学系の学生となりました。

現在、角田・大北研究室では角田範義教授、大北博宣助手の下で博士1名、修士8名、学部4名の総勢13名が日々研究に励んでいます。現在の研究は、「ハロゲン化銀、角柱状酸化チタンの光触媒反応への応用」、「セルロース、ポリ塩化ビニルを原料とした高機能活性炭の開発および特性評価」、「自動車触媒用助触媒である酸素貯蔵剤の調製ならびにこれらの酸素貯蔵能の高機能化とその特性評価」であり、環境およびエネルギー分野における基礎ならびに応用研究を行っています。

また、当研究室と共に研究を行っている水嶋研究室では、水嶋生智准教授の下で博士1名、修士7名、学部4名の総勢12名が「エタノール水蒸気改質用触媒の開発」、「高性能自動車触媒材料の基礎研究」、「高効率VOCプラズマ分解システムの開発」、「天然ガスからメタノール・ホルムアルデヒドの直接合成」などの研究を行っています。

一方、研究活動の他にも新入生歓迎会、ソフトボール大会とバーベキュー、研究室旅行、忘年会、新年会、送別会などの行事を通して親睦を深めています。

卒業生・修了生の皆様におかれましてはご多忙のことと存じますが、豊橋にお越しの際はお気軽に本研究室にお越し頂き、皆様の御活躍や過去の研究室の事などをお聞かせ下さい。末筆ながら、皆様の今後の更なる御活躍をお祈り申し上げます。





平成 25 年度忘年会 (2013 年 12 月 20 日 (金) 豊橋駅前にて撮影)

## 浴研究室の近況

修士 2 年 坂 部 高 裕

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと存じます。それでは、この場をお借りして浴研究室の近況について御報告させていただきます。

現在、研究室の構成は、浴俊彦教授、広瀬佑助教以下、修士課程 5 名、学部生 3 名の計 10 名で活動しています。

現在、浴研究室では大きく 3 つのテーマを持ち研究を行っています。

1 つ目のテーマは、『ゲノム安定性維持に関わる新規ヘリカーゼファミリーの機能研究』です。この研究は、2006 年にノーベル賞を受賞した Fire 氏と Mello 氏の研究と非常に近いもので、ヒトの癌や老化の研究に大きく貢献することが期待されています。この研究には、現在 3 名の学生が取り組んでいます。

2 つ目のテーマは、『土壤環境評価に向けた線虫群集構造解析法の確立』です。線虫は土壤に生息する主要な環境生物であり、生物多様性や土壤環境を評価するための優れた指標と考えられています。本研究室では、簡便で大規模な土壤線虫群集の解析を目指し、塩基配列に基づいた分子生物学的解析を行うための手法開発を進めています。この研究は、工場跡地等の土壤安全性評価や農地の健全性評価への応用が期待されており、現在 1 名の学生が研究に取り組んでいます。

3 つ目のテーマは、『遺伝子組換え酵母によるバイオセンサ技術の開発』です。ここでは、『化学物質検出用レポーター酵母の作製』と『DNA 損傷検出用レポーター酵母の作製』についての研究が行われています。『化学物質検出用レポーター酵母の作製』では、情報認識部位として嗅覚の利点に着目し、ラットの嗅覚受容関連遺伝子を出芽酵母に導入することで化学物質が検出できる酵母の作製を行っています。この研究は、環境分析等への応用が期待されており、現在 2 名の学生が研究に取り組んでいます。『DNA 損傷検出

用レポーター酵母の作製』では、これまで本研究室で開発されてきたレポーター酵母よりも簡便化・低コスト化を目指し、レポーター遺伝子として緑色蛍光タンパク質 (GFP) を用いた改良型レポーター酵母を作製しています。この研究は、創薬や環境分析等に 응용が期待されており、現在 2 名の学生が研究に取り組んでいます。

今年 12 月より浴研究室の新たなメンバーとして広瀬佑助教が加わりました。輪講などの様子から、今後の浴研究室は、浴教授と広瀬助教のお二人を中心に、更にパワフルな研究室へと生まれ変わりそうです。

卒業生、修了生の皆様、豊橋の近くに来られた時には、是非、研究室にお立ち寄りください。居室の場所は、G-501 であり、昔と変わらないアットホームな雰囲気です。研究室一同、皆様のご来校を心よりお待ちしております。最後になりましたが、皆様のこれからの益々の御活躍、御発展を心からお祈りしております。



## 平田研究室

修士一年 鈴木智也

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。

さて、本年度は旧物質工学系が環境・生命工学系に移行してから4年が経ち、ほぼ全ての学生が新系の所属となった節目の年度です。新たな系として様々な取り組みが行われ、初めての取り組みも多いですが、本研究室では以前と変わらず日々研究活動に励んでいます。

本研究室では現在、平田幸夫准教授のもと、修士課程2名、学部2名の総勢5名で活動しています。

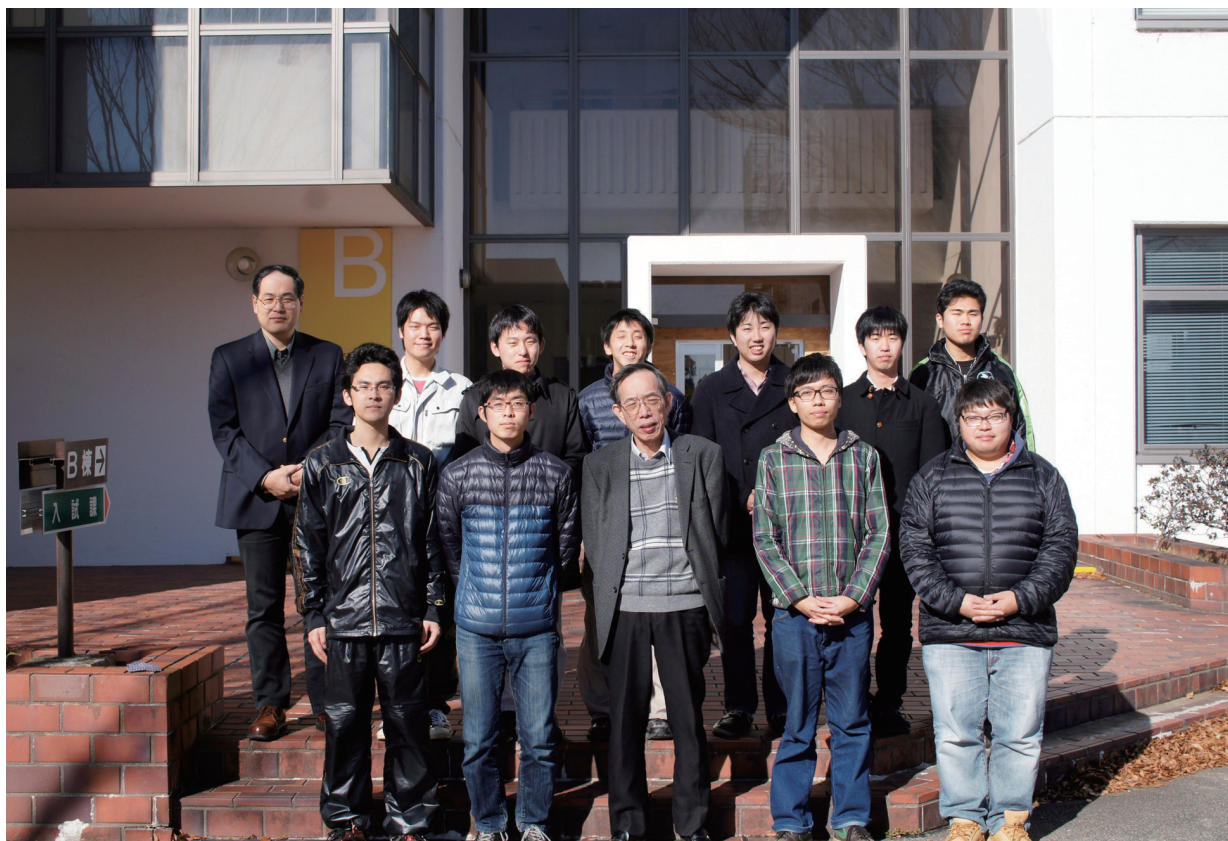
最近の研究内容として、本研究室では二次元超臨界流体クロマトグラフィーを用いた分離における、圧力や温度の調節による保持の調整や、その応用として油脂の分析手法の開発などがあります。また、本年度は

11月に開催された第44回中部化学関係学協会支部連合秋季大会に赴き、各自の研究の成果について発表を行いました。以下に研究発表の内容を示します。

- ・ 包括的二次元超臨界流体クロマトグラフィーの開発
- ・ 包括的二次元超臨界流体クロマトグラフィーによる油脂の分離

本研究室では、以前と変わらずマイクロ分離科学研究室（齊戸研）と居室を共にしており、ここに載せる記念撮影も齊戸研と撮影しました。

卒業生、修了生の皆様、ご多忙の事と存じますが、近くにお越しの際には是非研究室お立ち寄り頂ければと思います。最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同心よりお祈り申し上げます。





## 学内近況報告

教授 三浦均也

この夏は、3.11 東日本大震災に端を発した原子力発電の有り方に注目が集まり、ほとんどの原子力発電所が停止する中、日本中で官民間問わずに節電に励み、幸い大きな問題が生じることも無く、乗り切ることが出来ました。特に関東、関西方面にお住いの卒業生の皆様は、仕事と私生活の両方で節電の必要性を肌で感じられた方も多数おられたことと推察いたします。そのような日本全体が苦境に面した状況の中でも、卒業生の皆様におかれましては、それぞれの分野で日々ご活躍のことと存じます。本系におきましては人事異動や新課程3年次への編入生受け入れ、安心安全地域共創りサーチセンター（通称 CARM）と技術者教育プロジェクトのシンポジウム開催などがありましたので、本系の近況報告をさせていただきます。

最初に、平成24年9月29日（土）に本系が中心となって実施しております“技術者教育プロジェクト 高等専門学校教育と連続する「らせん型技術者教育」モデル”の一環として開催しましたシンポジウム「安全安心な社会を創造する建設技術者像 - 技科大教育の30年、これまでとこれからを考える -」に、多くの卒業生の皆様にご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。当日は土曜日の昼間にもかかわらず、約50名の卒業生の方々にホテルアソシア豊橋にお集まりいただきました（参加者：卒業生、在校生、学内関係者等、合計150名弱）。また、170名近くの卒業生の皆様からアンケートに対する回答をお送りいただきました。重ねてお礼申し上げます。

このシンポジウムでは、第1部で6名の卒業生の方に学生時代の経験や社会に出て技術者として活躍するための心構えなどをお話いただき、第2部では今後、本系で実践すべき技術者教育の内容についてご

### 教職員一覧

#### ■高専交流人事

今田 太郎（2013年4月より岐阜高専から本学准教授として1年間赴任）

#### ■現職

##### [建築・都市デザイン学分野]

教授：松本 博（系長）、山田聖志、大貝 彰  
松島史朗、斉藤 大樹、中澤 祥二  
浜島昭二（兼任）

准教授：泉田英雄、浅野純一郎、松井智哉  
増田幸宏、垣野義典、中森康之（兼任）

助教：谷 武、源城かほり、松本幸大、  
近藤恵美

助手：渋谷達郎

##### [都市・地域マネジメント学分野]

教授：廣島康裕、河邑 眞、三浦均也  
井上隆信、山口 誠、宮田 譲  
藤原孝男、北田敏廣（兼任）、  
木曾祥秋（兼任）

准教授：澁澤博幸、加藤 茂、横田久里子

助教：岡辺 拓巳、松尾幸二郎

##### [両分野]

技 官：金田隆文、片岡三枝子

議論いただきました。現在、本系ではJABEEおよび一級建築士資格への対応を行っております。これらの今後の取り組み方針を検討するために考慮すべき重要なご意見を伺うことが出来ました。シンポジウムの詳細につきましては、報告書（冊子）ならびに系のホームページでご報告させていただきますので、そちらをご参照下さい。また、平成24年12月7日には、



CARM 主催シンポジウム「沿岸域における地震防災」  
ー津波浸水予測域におけるレジリエンスの向上ー」を  
豊橋商工会議所で開催しました。山田聖志センター  
長（平成 24 年 4 月 1 日より青木伸一前センター長よ  
り交代）の下、CARM が中心となって本学における  
地域防災研究を推進しております。一方、今年度は全  
学再編後 3 年目を迎えて、建築・都市システム学系  
として 3 年次編入学生を初めて迎えるとともに、開  
学当初から続いてきた建設工学系の最後の 4 年生を  
送り出す年となりました。同時に、博士後期課程も以  
前の系を跨いだ 4 専攻から再編後の各系に直結した 5  
専攻に再編され、新たな大学院教育をスタートさせま  
した。

さて、この 1 年間の本系関連の人事異動について  
紹介いたします。この 1 年は多くの人事異動があり  
ました。まず、長年本学で尽力された青木伸一先生、

また、眞田靖士先生が大阪大学へ転任されました。ま  
た、細野康代先生が母校でもある首都大学東京へ転任  
されました。新任教員としては、高専との交流人事  
により、豊田高専から松本嘉孝先生が准教授として 1  
年間の予定で赴任されておられます。さらに 10 月か  
らは本学 OB の岡辺拓巳先生が助教として赴任され、  
11 月には齊藤大樹先生が建築研究所より教授として  
赴任されました。

大変大まかではございますが、以上のように系内の  
近況についてご報告させていただきました。本年度も  
松本博系長以下、教職員それぞれが教育、研究、大学  
運営、地域貢献活動などに全力で取り組んでおります。  
卒業生の皆様におかれましては、今後益々健康でご  
活躍されますようお願いいたしますとともに、引き続  
き本系に対してご支援・ご協力を賜りますようお願い  
申し上げます。

## 5 系が主導する防災・減災活動

教授・安全安心地域共創リサーチセンター センター長 齊藤大樹  
安全安心地域共創リサーチセンター 研究員 穂苅耕介

南海トラフ巨大地震の発生に関する情報がとり沙汰  
されるようになり、防災への取り組みが実務の現場に  
おいても顕著にみられるようになりました。他人から  
の命令ではなく、個人が自分にできることは何かを自  
主的に考え、行動に移す動きも生まれてきています。

今年度、安全安心地域共創リサーチセンター  
(CARM) では、文部科学省の事業として、高い知識  
と技術をもって現場で実践的に活躍する防災担当者を  
養成するコースプログラムを立ててきました。『地域  
地震防災コース』の名称は、地域の備えている特性に  
応じた地震防災対策に従事できる人材を育てたいとの  
期待からきています。本紙面では、今年 2014 年 2 月  
に開設しましたこのコースとその前段に開催しました  
シンポジウムについてご報告をさせていただきます。

コース開設にあたり、2013 年 10～12 月の期間、  
企業・自治体等の担当者が求める防災知識・技術に関  
する入念なニーズ調査を行いました。とりわけ 2013  
年 12 月 12 日(木)に、穂の国とよはし芸術劇場プラッ  
トアートスペースにて開催しましたシンポジウム「南

海トラフ巨大地震に備える～東三河地域の防災力向上  
に向けて」では、東三河港湾の蒲郡、御津、明海、神  
野、田原に立地する企業・自治体等に勤務されている  
方を中心に約 150 名の参加がありました。基調講演に、  
工学院大学の久田嘉章教授、また、話題提供に、イン  
ターリスク総研の田代邦幸氏をお招きし、明海と御津  
の取り組み状況をご講演いただいた東三河地域研究セ  
ンターの金子鴻一氏、御津臨海企業懇話会の遠山繁氏  
とともに、東三河地域の特性に応じた地域防災、地域  
連携のあり方を議論しました。

準備期間を経て実施した『地域地震防災コース』は、  
2014 年 2 月 5 日(水)から 1 回 90 分の講義を週 1  
回ずつ計 4 回行いました。4 回中 3 回以上の出席を条  
件に受講生の募集を行い、東三河地域の企業・自治体  
から 59 名を第 1 期受講生として受け入れました。

講師を担当された教員それぞれが、図表をふんだん  
に盛り込んだ解説付きのオリジナル教材を作成の上、  
受講生の理解を受講カルテとアンケートで確認しなが  
らわかりやすく丁寧な講義を行い、受講生からは講義

内容だけでなくコースのつくり方にも高い評価をいただきました。あいにく今回は、受講生同士が知り合い、交流する機会を十分に設けることができませんでした。が、実務の現場に応用可能な知識や技術を提供すると同時に、このコースそのものが、地域地震防災に関わ

る人材・情報交流のプラットフォームの役割を担っていけるよう、コースの仕組みや情報発信・集約方法などの整備を進めていきたいと考えています。

引き続き、よろしく願い申し上げます。

### シンポジウムの概要

開会挨拶	学長	榊 佳之
事業紹介	センター長	斉藤 大樹
基調講演	久田 嘉章	(工学院大学)
話題提供	田代 邦幸	(インターリスク総研)
	金子 鴻一	(東三河地域研究センター)
	遠山 繁	(御津臨海企業懇話会)

### パネルディスカッション

ー東三河地域の防災力向上の方策を探るー  
(モデレーター 副センター長 増田 幸宏)

閉会挨拶	系長	松本 博
総合司会		中澤 祥二

### 「地域地震防災コース」(第1期)概要

2月5日(水)	基礎から学ぶ地震と防災	(講師: 斉藤 大樹)
2月12日(水)	基礎から学ぶ建物・地盤の地震対策	(講師: 中澤 祥二)
2月19日(水)	基礎から学ぶ津波・高潮	(講師: 加藤 茂)
2月26日(水)	基礎から学ぶ地震への備えと行動	(講師: 増田 幸宏)



パネルディスカッションでは地域特性に応じた地震防災について議論した



『地域地震防災コース』がスタート、59名を第1期受講生として受け入れた

# 平成 24 年度 旧系同窓会収支報告・事業報告

## 旧 1 系会計報告

### ■収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	5,348,884
利 息	514
収入合計	5,349,398

### ■支出の部

項 目	金 額 (円)
会報発送費	111,140
アルバイト代	30,000
通信費(封筒作製費用)	28,770
小 計	169,910
次年度繰越金	5,179,488
支出合計	5,349,398

## 旧 2 系 (豊友会) 事務局から

### 平成 24 年度収支報告 (H24.4.1 ~ H25.4.30)

#### ■収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,085,547
会費 (各系分配金)	0
普通預金利息	740
収入合計	4,086,287

#### ■支出の部

項 目	金 額 (円)
次年度繰越金	4,086,287
支出合計	4,086,287

### 豊友会事務局

〒 441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1

豊橋技術科学大学 機械工学系内

FAX: 0532-44-6690

E-mail: admin-2@alumini.tut.jp

URL: <http://www.alumni.tut.jp/dept2/>

会長	中川 真
副会長	安部 洋平
会計担当	前野 智美
会報担当	山田 基宏
名簿担当	今村 孝
ホームページ担当	野田 善之



## 旧 3・4 系同窓会平成24年度会計報告

### ■収入の部

項 目	金 額 (円)
平成 23 年度繰越金	5,143,387
三志会準備金の返金 *	2,000,000
預金利息	836
収入合計	7,144,223

### ■支出の部

項 目	金 額 (円)
平成23年度会報(No.29)発送費	276,115
平成23年度会報(No.29)発送作業費	112,400
平成24年度会報(No.30)発送/作業費**	0
事務費	210
次年度繰越金	6,755,498
支出合計	7,144,223

\* 当初予定されておりました三志会は都合により中止となりました。

\*\*H24 年度の No.30 より会報は電子化され、郵送は停止されました。

## 旧 5 系同窓会会計報告

これまで同窓会報に掛かっていた費用は、30号から web 公開のみとなりましたので発送などの支出は無くなりました。

### ■収入の部

項 目	平成24年度予算案	平成24年度決算	平成25年度予算案
前年度繰越金	1,865,666	2,084,964	2,085,964
会 費	0	0	0
預 金 利 息	400	384	400
小 計	400	384	400
収入合計	1,866,066	2,085,348	2,086,364

### ■支出の部

項 目	平成24年度予算案	平成24年度決算	平成25年度予算案
会 報 郵 送 料	55,000	0	0
タッグシール作成費	10,000	0	0
袋詰め作業代	11,000	0	0
名簿管理経費	0	0	15,000
小 計	76,000	0	15,000
次年度繰越金	1,790,066	2,085,964	2,071,364
支出合計	1,866,066	2,085,964	2,085,964

## 旧 6 系（建設工学）同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 谷 武（13 期生）

平成24年度から紙面による会報の発送をやめ、同窓会の HP (<http://www.alumni.tut.jp/>) に会報を掲載することになりました。そのため、昨年度まで計上していた同窓会報の郵送費が無くなりました。また、平成24年度は、建築・都市システム学系が同窓会の名簿業務を担当したため、業務の遂行のために購入した DVD の代金を経費として計上しました。

平成 24 年 9 月 1 日から平成 25 年 9 月 1 日までの建設工学同窓会の収支決算

### ■収入の部

項 目	金 額 (円)
残金 (平成24年 9 月 1 日現在)	1,784,990
全学同窓会からの会計費の分配金	0
預金利息	206
収入合計	1,785,196

### ■支出の部

項 目	金 額 (円)
名簿用 DVD 購入代	1,130
全学同窓会報郵送費用	0
小 計	1,130
残金 (平成24年 9 月 1 日現在)	1,784,066
支出合計	1,785,196

## 旧 7 系（知識情報工学系）同窓会収支報告

### ■収入の部

項 目	平成24年度決算
前年度繰越金	4,812,259
会費	0
預金利息	771
収入合計	4,813,030

### ■支出の部

項 目	平成24年度決算
会報経費	
会報発送費	0
会報発送作業費	0
原稿執筆御礼	0
小 計	0
次年度繰越金	4,813,030
支出合計	4,813,030

\*平成24年度より、会報は Web 上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) での公開となりました。

また、案内ハガキは、総会開催案内等を兼ねて全学同窓会での対応となったため、今年度の支出はありませんでした。

## 旧 8 系同窓会収支報告 (H24 年度)

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月分)

H24年度は、H23年度会報発送作業を H24年 6 月に行ったため、会報発送経費が計上されております。

### ■収入の部

項 目	金額 (円)
前年度繰越金	4,554,480
預金利息	709
収入合計	4,555,189

### ■支出の部

項 目	金額 (円)
会報発送費	107,760
会報発送作業費	12,000
会報発送用ラベルシール代	840
小 計	120,600
次年度繰越金	4,434,589
支出合計	4,555,189



## 平成24年度 技科大同窓会予算執行状況

### 予算

■収入の部		金額:円
入会金	2,000,000	
会費	4,000,000	
預金利息	10,000	
会報広告費	80,000	
H24年度収入計	6,090,000	
H23年度からの繰越金	9,776,851	
収入合計	15,866,851	

■支出の部		金額:円
会報経費	500,000	
総会案内状等印刷・連絡費	1,000,000	
役員経費	65,000	
庶務経費	50,000	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
卒業生懇親会開催援助	300,000	
Web関連経費	0	
新系対応準備金	2,000,000	
各系への配分金	0	
H23年度支出計	4,665,000	
H24年度への繰越金	11,201,851	
支出合計	15,866,851	

### 決算

■収入の部		金額:円	
入会金 (397名× 5,000)	1,985,000		
会費 (397名× 10,000)	3,970,000		
預金利息	1,766		
同窓会報広告掲載料	80,000		
H23課外活動活性化経費返金	64,918		
H24年度収入計	6,101,684		
H23年度からの繰越金	9,776,851		
収入合計	15,878,535		

■支出の部		金額:円	
会報経費	デジタルブック化 (三愛企画)	422,000	
総会案内状等印刷・連絡費		0	
役員経費	4月21日 (役員会)	25,000	
役員経費	会長		17,000
役員経費	役員 8名		8,000
庶務経費	各種振込手数料	8,000	
庶務経費	(印刷代、卒業記念、会費返却)		2,520
庶務経費	入会金・会費振込用紙印刷代		1,700
庶務経費	図書カード (会報謝礼: 学長、総合教育院)		0
庶務経費	学生アルバイト費		0
庶務経費	学長懇談会弁当代 (¥1,050×3名)		3,150
庶務経費	通信費		630
卒業記念パーティ援助金		250,000	
学生活動援助金		600,000	
卒業生懇親会開催援助	課外活動援助		500,000
卒業生懇親会開催援助	技科大祭追加援助		100,000
卒業生懇親会開催援助	「高石先生を偲ぶ会」開催助成		34,000
卒業生懇親会開催援助	建設工学系開学35周年記念企画シンポジウム交流会		82,000
卒業生懇親会開催援助	第5回塑性接合研究班OB会		24,000
卒業生懇親会開催援助	第10回システム制御研究室 (旧工程制御研究室) 同窓会		30,000
卒業生懇親会開催援助	建設工学系関西支部・懇親会		38,000
卒業生懇親会開催援助	TUT 中村研同窓会 (アイオニクス)		38,000
Web関連経費		0	
新系対応準備金		1,985,000	
各系への配分金		0	
H24年度支出計		3,536,000	
H25年度への繰越金※		12,342,535	
支出合計		15,878,535	

※繰越金内訳			
三井住友 (普通)	2013年 4月17日	7,039,594	
三井住友 (定期)	2013年 3月12日	4,570,623	
郵便局振替	2013年 4月18日	31,840	
郵便	2013年 4月1日	698,717	
現金	2013年 3月31日	1,761	
合計		12,342,535 (円)	

終身会費 (397名分) 3,970,000円のうち、半額を新系対応準備金として割り振りました。残りの半額は旧系対応金とします。  
(H24役員会にて承認済)。旧1～8系には、各系の卒業生総数 (概数) の比率に応じた額を配分します (平成25年9月以降を予定)。

## 平成24年度 技科大同窓会新系対応準備積立金収支報告

### ■収入の部

項目		金額 (円)	
繰入金		1,985,000	1,985,000
	H23年度分終身会費の半額 (397名)		
預金利息		1,820	
H24年度収入計		1,986,820	
H23年度からの繰越金		11,420,374	
	利息 (H23年度まで)		374
	H21年度分終身会費		3,870,000
	H22年度分終身会費		3,990,000
	H23年度分終身会費		3,560,000
収入合計		13,407,194	

### ■支出の部

項目	金額 (円)
なし (全額を積み立て)	0
H24年度支出計	0
積立金合計	13,407,194

## 平成25年度 技科大同窓会新系対応準備積立金予算

### ■収入の部

項目	金額 (円)
繰入金 H25年度分準備金※1	2,000,000
預金利息	2,000
H25年度収入計	2,002,000
H24年度からの繰越金	13,407,194
収入合計	15,409,194

### ■支出の部

項目	金額 (円)
同窓会報原稿執筆謝礼※2	60,000
H25年度支出計	60,000
積立金合計	15,349,194
支出合計	15,409,194

※1 終身会費 4,000,000円のうち半額 2,000,000円を新系準備金として配分。

※2 各系担当ページの原稿執筆に対する謝礼。1件につき一律、図書カード 2,000円。

## 平成25年度 技科大同窓会予算

### ■収入の部

項 目	金 額 (円)
入会金	2,000,000
会費	4,000,000
預金利息	10,000
会報広告費	80,000
H25年度収入計	6,090,000
H24年度からの繰越金	12,342,535
収入合計	18,432,535

### ■支出の部

項 目	金 額 (円)
会報経費	500,000
総会案内状等印刷費・連絡費	1,000,000
役員経費	90,000
庶務経費	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生活動援助金	500,000
卒業生懇親会開催援助	300,000
Web 関連経費	0
新系対応準備金 ※1	2,000,000
各系（旧系）への配分金 ※2	3,985,000
H25年度支出計	8,675,000
H26年度への繰越金	9,757,535
支出合計	18,432,535

※1 終身会費の半額ずつを新系対応準備金、旧系配分金に割り振ります。

※2 旧系への配分額はH24年度分（1,985,000円）およびH25年度予算（会費の半額2,000,000円）の和を計上しています。各系の卒業生総数（概数）の比率に応じた額を各系に配分します。



# 第 62 回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

- 1 日 時：平成 25 年 6 月 1 日（土）～ 8 月 11 日（日）
- 2 場 所：東海地区 8 国立大学が数競技の開催を分担し，男子 20 種目，女子 19 種目を各地で実施
- 3 幹事大学：名古屋大学

競技別得点表（男子）

競技種目	順位		1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		6 位		7 位		8 位		備 考
	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	
1 陸上競技	愛知教育大学	10	静岡大学	8	岐阜大学	6	三重大学	5	名古屋大学	4	名古屋工業大学	3	浜松医科大学	2	豊橋技術科学大学	1			
2 水泳	岐阜大学	10	名古屋大学	8	三重大学	6	静岡大学	5	名古屋工業大学	4	愛知教育大学	3	浜松医科大学	2	豊橋技術科学大学	1			
3 硬式野球部	名古屋大学	8	静岡大学	6	三重大学	4.5	岐阜大学	4.5	名古屋工業大学	2	豊橋技術科学大学	2	愛知教育大学	2					
4 準硬式野球	名古屋大学	8	浜松医科大学	6	名古屋工業大学	4.5	静岡大学	4.5	愛知教育大学	2	三重大学	2	岐阜大学	2					
5 硬式テニス	名古屋工業大学	10	静岡大学	8	名古屋大学	6	三重大学	5	愛知教育大学	2.5	豊橋技術科学大学	2.5	岐阜大学	2.5	浜松医科大学	2.5			5 位以下は順位なし
6 ソフトテニス	2 日目雨天により大会中止																		
7 バドミントン	岐阜大学	6	静岡大学	5	三重大学	4	愛知教育大学	3	名古屋工業大学	2	豊橋技術科学大学	1							
8 バレーボール	岐阜大学	10	静岡大学	8	愛知教育大学	6	名古屋工業大学	5	名古屋大学	4	三重大学	3	浜松医科大学	2	豊橋技術科学大学	1			
9 卓球	名古屋大学	8	静岡大学	6	岐阜大学	5	三重大学	4	名古屋工業大学	3	愛知教育大学	2	豊橋技術科学大学	1					
10 バドミントン	三重大学	10	豊橋技術科学大学	8	静岡大学	6	岐阜大学	5	愛知教育大学	4	名古屋工業大学	3	名古屋大学	2	浜松医科大学	1			
11 サッカー	静岡大学	8	岐阜大学	6	名古屋大学	5	愛知教育大学	4	浜松医科大学	3	名古屋工業大学	2	三重大学	1					
12 ハンドボール	岐阜大学	6	愛知教育大学	5	名古屋大学	4	名古屋工業大学	3	三重大学	1.5	静岡大学	1.5							
13 柔道	名古屋大学	6	岐阜大学	5	静岡大学	4	名古屋工業大学	3	豊橋技術科学大学	1.5	愛知教育大学	1.5	三重大学団体戦成立せず	0					5 位以下は順位なし
14 剣道	岐阜大学	10	静岡大学	8	名古屋大学	6	三重大学	5	愛知教育大学	2.5	名古屋工業大学	2.5	浜松医科大学	2.5	豊橋技術科学大学	2.5			5 位以下は順位なし
15 空手道	浜松医科大学	10	名古屋大学	8	静岡大学	6	岐阜大学	5	三重大学	4	愛知教育大学	3	名古屋工業大学	2					
16 弓道	浜松医科大学	10	愛知教育大学	8	名古屋工業大学	6	名古屋大学	5	静岡大学	2.5	三重大学	2.5	岐阜大学	2.5	豊橋技術科学大学	2.5			5 位以下は順位なし
17 体操		5		4		3		2		1									
18 馬術	静岡大学	6	名古屋大学	5	三重大学	4	愛知教育大学	3	名古屋工業大学	2	岐阜大学	1							
19 アーチェリー		5		4		3		2		1									
20 少林寺拳法	岐阜大学	4	愛知教育大学	3	静岡大学	2	三重大学	1											

競技別得点表（女子）

競技種目	順位		1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		6 位		7 位		8 位		備 考
	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	大学名	得点	
1 陸上競技	愛知教育大学	8	静岡大学	6	三重大学	5	岐阜大学	4	名古屋大学	3	名古屋工業大学	2	浜松医科大学	1					
2 水泳	愛知教育大学	6	岐阜大学	5	浜松医科大学	4	三重大学	3	名古屋大学	2	静岡大学	1							
5 硬式テニス	静岡大学	8	愛知教育大学	6	浜松医科大学	5	豊橋技術科学大学	4	岐阜大学	2	名古屋大学	2	三重大学	2					5 位以下は順位なし
6 ソフトテニス	2 日目雨天により大会中止																		
7 バドミントン	静岡大学	4	愛知教育大学	3	岐阜大学	2	三重大学	1											
8 バレーボール	三重大学	4	岐阜大学	3	静岡大学	2	名古屋大学	1											
9 卓球	静岡大学	6	名古屋大学	5	愛知教育大学	4	三重大学	3	岐阜大学	2	名古屋工業大学	1							
10 バドミントン	浜松医科大学	8	三重大学	6	静岡大学	5	愛知教育大学	4	岐阜大学	3	名古屋工業大学	2	名古屋工業大学	1					
12 ハンドボール	岐阜大学	4	愛知教育大学	3	静岡大学	2	三重大学	1											
13 柔道	各大学団体戦成立せず																		
14 剣道	三重大学	6	名古屋大学	5	愛知教育大学	4	静岡大学	3	岐阜大学	1.5	浜松医科大学	1.5							5 位以下は順位なし
15 空手道	静岡大学	5	愛知教育大学	4	浜松医科大学	3	名古屋大学	2	三重大学	1									
16 弓道	愛知教育大学	10	名古屋工業大学	8	浜松医科大学	6	豊橋技術科学大学	5	静岡大学	2.5	三重大学	2.5	名古屋大学	2.5	岐阜大学	2.5			5 位以下は順位なし
17 体操																			オープン競技
19 アーチェリー		4		3		2		1											
20 少林寺拳法	岐阜大学	4	愛知教育大学	3	静岡大学	2	三重大学	1											

## 平成24年度卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

H25年12月1日現在

No	就職先	学部	修士	博士
1	東海旅客鉄道(株)		8	
2	スズキ(株)	1	6	
3	三菱電機(株)		6	
4	豊橋技術科学大学		1	5
5	(株)デンソー		4	1
6	西日本旅客鉄道(株)		4	
7	三菱自動車工業(株)		4	
8	アスモ(株)		3	
9	(株)ウオント	1	2	
10	オーエスジー(株)		3	
11	シロキ工業(株)		3	
12	大同特殊鋼(株)		3	
13	太平工業(株)		3	
14	トヨタ自動車(株)		3	
15	(株)ニデック		3	
16	日本プロセス(株)		3	
17	パナソニック(株)	1	2	
18	(株)インターネットイニシアティブ		2	
19	(株)ウェブインパクト		2	
20	鹿島建設(株)		2	
21	蒲郡市	1	1	
22	(株)神戸製鋼所		2	
23	(株)近藤製作所	1	1	
24	(株)三五		2	
25	住友軽金属工業(株)		2	
26	住友重機械工業(株)		2	
27	住友電気工業(株)		2	
28	セイコーエプソン(株)		2	
29	大和ハウス工業(株)		2	
30	高砂熱学工業(株)		2	
31	(株)竹中工務店		2	
32	(株)豊田自動織機		2	
33	トヨタテクニカルディベロップメント(株)		2	
34	トヨタ紡織(株)		2	
35	豊橋市	1	1	
36	(株)野口製作所		2	
37	浜松ホトニクス(株)		2	
38	日立オムロンターミナルソリューションズ(株)		2	
39	日立造船(株)		2	
40	(株)日立ハイテクノロジーズ		2	
41	日野自動車(株)		2	
42	富士重工業(株)	1	1	
43	富士通(株)		1	1
44	古河電気工業(株)		2	
45	防衛省	1	1	
46	本田技研工業(株)		2	
47	三浦工業(株)		2	
48	三菱重工業(株)		2	
49	三菱電機エンジニアリング(株)		2	
50	武蔵精密工業(株)	1	1	

## ・・・・・・・・オープンキャンパスの開催案内・・・・・・・・

2014年（平成26年）8月30日（土）にオープンキャンパスが開催されました。本年度から、同窓会企画「技科大同窓生集いの部屋」として、豊橋技科大OB・OGの方々がお茶菓子やお飲み物と共に自由にご歓談いただける場を設けました。



本年度のオープンキャンパスには過去最高の2,630名の方々にご来場いただき、同窓生の集いの部屋にも34名の同窓生が来場いただきました。また、男女共同参画推進室と協賛で、同窓生の大塚（旧姓 舟橋）香様（1988年度建設工学専攻修了、国土交通省 中部地方整備局 湾岸事業企画課）より、キャリアデザイン・カフェ「社会で活躍する豊橋技科大女性卒業生との交流」と題した講演も行いました。



キャリアデザイン・カフェの様子

今後も、同窓生向けのイベントを続けさせていただきますので、多くの同窓生の皆様のご出席を宜しくお願い致します。



## .....同窓会事業報告および予定（平成 24 年度～ 25 年度）.....

### 1. 会報の発行

同窓会報第 30 号を平成 25 年 3 月に発行しました。なお、今回より印刷製本は行わず、電子化してホームページ (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて公開しており、随時閲覧可能になっています。平成 25 年度についても、同様に電子媒体での発行を予定しており、同窓生の皆様には葉書等の郵送物にて会報発行の周知を予定しています。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成 25 年 3 月 22 日にライフポートとよはしにて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学ひばりラウンジにおいて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。平成 25 年度（平成 26 年 3 月 24 日）も例年通り行う予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で学生活動援助を 19 団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

### 4. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成 24 年度は 6 団体、平成 25 年度は 11 月現在で 2 団体の助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) に掲載されていますので、是非ご覧ください。

### 5. 役員会の開催

平成 25 年 4 月 20 日に大学 D 棟 514 会議室にて定例役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の役員、活動予定などに関して話し合いました。なお、役員会の議事録はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

### 6. 榊学長との懇談

平成 25 年 6 月 22 日に、ホテルアークリッシュ豊橋にて榊学長（本会名誉顧問）、稲垣理事、神野理事、鈴木理事、本会の高嶋会長（当時）、稲田副会長、高木役員（新 2 系）との懇談を行い、大学の現状と将来展望などについて意見交換を行いました。

### 7. 臨時役員会の開催

平成 25 年 8 月に臨時役員会（電子メールでの持ち回り）を開催し、高嶋会長（当時）の平成 25 年 10 月 31 日付けでの辞任の承諾、および新会長候補推薦者の選出について審議しました。

### 8. 定期総会の開催

平成 25 年 10 月 12 日に、大学 C 棟 204 会議室にて定期総会を開催し、平成 21～24 年度の事業報告および収支決算報告、ならびに平成 25～28 年度の事業計画および収支予算案、会則改定等について話し合いました。また、高嶋会長（当時）の後任として、古野志健男氏（㈱日本自動車部品総合研究所専務取締役、電気・電子工学系（旧 3 系）1 期修了生）を新会長に選出しました。なお、総会の議事内容および議事録はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

## 平成 25 年度同窓会役員（平成 25 年 11 月現在）

会 長：古野 志健男（㈱日本自動車部品総合研究所）  
副 会 長：山本 一公（豊田工業高等専門学校 情報工学科（1 年間の出向）、知能工学系（旧情報工学系））、  
稲田 亮史（豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系（旧電気・電子工学系））  
事 務 局：稲田 亮史（豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系（旧電気・電子工学系））  
機械工学系（1 系 名簿、援助活動担当）：安部 洋平、感本 広文、関下 信正、戸高 義一、今村 孝、  
山田 基宏、前野 智美、田崎 良佑  
電気・電子情報工学系（2 系 事務局、役員会・総会担当）：稲田 亮史、村上 義信、河野 剛士、  
高木 宏幸、秋田 一平、田上 英人、赤井 大輔、宮路 祐一、後藤 太一、川島 朋裕  
情報・知能工学系（3 系 会計担当）：加藤 博明、山本 一公、山田 実、小林 暁雄  
環境・生命工学系（4 系 HP・ML 担当）：佐藤 裕久、栗田 弘史  
建築・都市システム学系（5 系 会報担当）：谷 武、松本 幸大、岡辺 拓巳  
名誉顧問：豊橋技術科学大学学長 榊 佳之

\* 各系役員へのメールは、admin\_#@alumni.tut.jp（旧系）または admin\_n#@alumni.tut.jp（新系）  
# に系番号を入れて下さい。

## 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成 4 年 12 月から終身会費制となりました。つきましては、平成 5 年 3 月以降の卒業・修了生で入会費（5,000 円）または、終身会費（10,000 円）が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

---

**旧 1 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技科大第 1 工学系同窓会

---

**旧 5 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

---

**旧 2 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

---

**旧 6 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

---

**旧 3 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4 系同窓会

---

**旧 7 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学 7 系同窓会

---

**旧 4 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4 系同窓会

---

**旧 8 系：** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学 8 系同窓会

## 電子メールアドレスの登録のお願い

同窓会報の発行や同窓会からの案内を電子メールでお伝えする予定です。電子メールのアドレス登録はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) の住所変更用フォームを利用して手続きができますのでご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

#### **同窓会 改訂した会則の「会員名簿の管理と利用に関する規約」に基づいて…**

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示は削除をご希望の方は、各系役員または同窓会事務局までご連絡下さい。

#### **同窓会報への広告**

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。



# \* 豊橋技術科学大学同窓会会則 \*

## 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。  
第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。  
第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
(1) 会員名簿（正会員連絡先）の管理  
(2) 会報の発行  
(3) 総会の開催  
(4) 会員相互の交流支援  
(5) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。  
(1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者  
(2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者  
(3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教職員  
(4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、役員会または総会において推薦された者  
2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。  
(1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）  
(2) 会長 1名  
(3) 副会長 2名  
(4) 幹事 原則として各系2名（再編前の系組織からは最低1名）  
(5) 顧問 若干名  
第7条 本会役員は、次の各号に定めるところにより行う。  
(1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。  
(2) 会長、副会長は、正会員のうちから役員会が推薦し、役員会の決議を経て選任する。  
(3) 幹事は、正会員のうちから役員会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。  
(4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち役員会において推薦された者とする。  
第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。  
第9条 本会の議決機関として役員会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。  
2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。副会長2名のうち、1名は庶務責任者として役員会や総会等の開催の責務を負う。  
3 幹事は、役員会において意見を述べ、また会務を分掌して本会運営の責務を負う。  
4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることが出来る。  
第11条 幹事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。  
(1) 事務局・総会等の庶務運営  
(2) 会計  
(3) 会報の編集、発行  
(4) 交流支援・名簿管理システムおよび電子情報の管理  
(5) 会員名簿の更新管理、および会員相互の交流親睦の支援  
(6) 各系の同窓会組織との連携の代表  
(7) 海外同窓会活動の総括（海外支部）  
2 (1)～(5)の業務担当は系毎に割り当て、1年毎に順送りしながら遂行することを原則とする。  
3 (6)、(7)は任期一年で再任を妨げないものとする。  
4 各々に責任者を定めて業務を遂行する。  
5 業務は必要に応じて、役員会の承認を経て外部への委託・委嘱することができるものとする。

## 第6章 役員会

- 第12条 役員会は、第6条に定められた役員のうち、会長、副会長、幹事により構成される。  
第13条 役員会は、会長が招集し、庶務責任者の副会長が開催の責務を負う。  
第14条 役員会は次の事項を審議する。  
(1) 本会の事業の運営に関する事項  
(2) 事業報告及び決算報告  
(3) 事業計画案及び予算案  
(4) 賛助会員の推薦に関する事項  
(5) その他、本会の運営に関する議案  
第15条 役員会は構成員の過半数の出席をもって成立する。  
2 役員会に出席できない構成員は、他の構成員又は議長に表決を委任することができる。これにより役員会に出席したものとみなす。  
3 役員会の議長は会長が務める。  
4 役員会の議決は、役員会出席者の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。

## 第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が招集し、役員および正会員により構成される。  
2 定期総会は、毎年開催することを原則とする。  
3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。  
4 会長は、総会を招集するとき、少なくとも4週間前までに文書または電磁的方法で正会員に通知しなければならない。  
第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。  
(1) 会則の制定・改廃  
(2) 前回総会以降の事業報告及び収支決算案

- (3) 事業計画及び収支予算案  
(4) その他、本会の運営に関し重要な事項

- 第18条 総会は役員会の3分の2以上の出席をもって成立する。  
2 総会に出席できない構成員は、議長に議決を委任することができ、これにより総会に出席したものとみなす。  
3 総会の議長は会長が務める。  
4 総会の議決は、総会出席者の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、会長が決める。

## 第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、役員会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。  
第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。  
(1) 入会金 5,000円  
(2) 終身会費 10,000円  
2 会費の納入は入学時に一括して行い、本会で管理する。在学中は、準会員としての資格を得る。  
第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。  
第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。  
第23条 本会の収支は予算に基づいて執り行う。予算は、年度毎に役員会への事業計画の提出を受け、総会での審議・承認を経て決定する。  
2 会計を担当する役員は、会計年度終了後、速やかに決算を行い、監査を受けなければならない。

## 第9章 会計監査

- 第24条 会計監査の担当は、本会役員以外が行う。  
2 会計監査は、年度毎に会計業務に係る収支の状況等を監査し、その結果を総会に報告し承認を得る。  
3 会計監査は、役員会に出席し、必要に応じて意見を述べることが出来る。

## 第10章 会員名簿

- 第25条 本会の会員名簿（正会員の連絡先、以下、会員名簿）を適切に更新管理し、個人情報の保護のもと、本会の目的である会員相互の親睦と豊橋技術科学大学の発展に有効活用するために、「会員名簿の管理と利用に関する規約」を別途定め、この管理規約にもとづき管理利用するものとする。

## 第11章 雑則

- 第26条 本会会則の改訂は、役員会の議決を経て総会の承認を必要とする。  
第27条 本会会則施行に必要な規約ならびその他必要な事項は、役員会の議決を経て会長が定める。

## 付則

- 平成4年12月19日の総会において会則改定の承認を得て、平成4年12月20日から施行  
平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。  
本会則は、平成26年8月30日の総会において、会則改定の承認を得て、平成26年8月31日から施行する。

## 豊橋技術科学大学同窓会「会員名簿の管理と利用に関する規約」

(平成25年10月制定)

- 1 本会の会員名簿（正会員の連絡先）を適切に更新管理し、個人情報の保護のもと、本会の目的である会員相互の親睦と豊橋技術科学大学の発展に有効活用するために、本規約を定める。
- 2 豊橋技術科学大学同窓会では、正会員の以下の項目（以下、情報）を会員名簿として収集・管理する。
  - 学籍番号、氏名、出身系、卒業・修了年、研究先、出身高校・専攻、メールアドレス、勤務先名、勤務先住所・電話、自宅住所・電話、帰省先住所・電話
- 3 情報は、大学卒業・修了時点の情報元とし、会員からの申し出により随時更新する。
- 4 情報は、同窓会報や総会の案内等、同窓会会員の交流活性等の目的で使用される。また別途覚書を定め、豊橋技術科学大学から同窓会への案内等に用いるために共有・共同管理し活用する。
- 5 情報の開示は、覚書にもとづき豊橋技術科学大学とその関連組織への提供、および、会員相互の親睦を図るために連絡を取る目的で会員から開示を希望された場合に限るものとする。開示する場合は、要求者の本人確認と利用目的を役員が確認の上、必要と判断する範囲の情報に限定して、開示するものとする。
- 6 開示情報にもとづき会員間の相互連絡など結果、情報の更新が確認された場合には、開示を受けた者は、会員本人の了承を得て同窓会に提供し、会員名簿の情報更新に資するように取り扱うものとする。
- 7 個人情報保護に関する基本方針を以下と定める。
  - (1) 同窓会の目的にのみ限り、本規約にもとづいて個人情報を使用する。
  - (2) 会員の個人情報に関する照会には、法令に基づくものと4.に基づくもの以外は対応しない。
  - (3) 規約に沿ったものであっても会員が自己の個人情報を他への開示を望まない場合（非開示）や、名簿からの削除を希望する場合は、同窓会への書面による届出により、いつでも将来に向けて変更できるものとする。その届出がない場合は、規約に基づく開示、および役員が必要であると判断した開示に同意したものとみなす。

## 付則

- この規約は平成25年10月12日の総会承認を経て、平成25年10月13日より施行する。

## 学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

### J A Z Z 研究会

#### 環境生命工学課程 4年 小川倫明

この度は課外活動活性化費を援助いただき、新しいステージピアノの購入することができました。誠にありがとうございました。

当研究会は名前の通り音楽の「Jazz」を専門的に演奏研究しているクラブです。月に一度セッション会を開いて会員の演奏を披露しています。学園祭ではJazz 喫茶を催しました。2013年度は例を見ないほどお客様が来店し、演奏の後にはいつもより大きな拍手がとびかっています。

Jazz 研究会は今後外部への演奏を積極的に行うことを目標にしています。一般的なJazz セッション会はノルマもなく、気軽に参加することができるのが特徴です。しかし必要な技術と知識そして自信をもっていなければ、参加に対する積極性は生まれません。

現在は個人練習やバンドごとの練習に限って行っていますが、これからは各楽器隊で集まって楽器の演奏法について検討しあうことや、音楽理論に詳しい会員の講座を開くことを予定しています。そして全員が自信をもって楽しくライブの場にでることを大きな目標にしています。

会員の成長および新たなステージのため、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



### おちゃのかい

#### 都市建築システム工学課程 4年 椋代大暉

私は、「おいしいお菓子とお茶が食べられるよ」という勧誘から茶道をはじめました。まだ豊橋に来て1週間くらいで、何か部活でもしようかな、それともしないでおこうかな、と悩んでいる時でした。茶道といえば千利休、あとは正座をするくらいしか知らず、そもそも抹茶も飲んだこともなかったのです。

友人を誘って行ってみると、確かにおいしいお菓子とお茶をいただくことができました。しかし驚いたのは、お菓子を食べるためにお茶を出すのではなく、お茶を飲むためにお菓子や部屋の内装、食事を出すのだということでした。ただのお茶ではないか、普段飲んでいるものより苦く、飲みにくいものを飲むためになぜそのようなことを、とその時は思ったものです。そのことを知りたくて部活へ顔を出しているうちに、だんだんとその理由がわかってきました。お茶を出すのは一息ついてもらうためだと、そのためにできることを行うのが茶道である、ということでした。お客に一息ついてもらうためにおもてなしをする、誰かをもてなそうという考えがあったからこそ、長い時代を生き抜けたのだと今

ならわかります。私の専門は建築ですが、関わる人が一息つけるように、という考えを持って今後も精進したいと思います。





## バスケットボール部

機械工学課程 4年 當銘俊貴

この度は、我々バスケットボール部へ御支援をいただき、ありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。バスケットボール部は、現在部員約 25 名で活動しております。皆様のご支援により、バスケットボールと練習や試合の撮影用のビデオカメラを購入させていただき、不自由ない充実した練習を送らせていただいております。今年の東国体は、悔しくも 8 位という結果に終わってしまいましたが、得られたものはそれ以上に大きく、日々技術・精神力を鍛え、汗を流しています。

今年度の練習のキーワードは「よく考え、よく話す」です。一見簡単に思えますが、失敗を自分の能力不足ととらえ、考え込む選手が多く、自分の意見を言うことが難しい現状でした。個々の能力だけではなく、コミュニケーション力、チームワークをより一層高めるため、互いをよく知り、よく考あうことを第一の目標にしています。

バスケットボール部は、これまでも卒業された先輩方より「バスケの技術」のみならず、「人間としての力」を育てていただきました。このよき伝統は今も自然と残り、部員に浸透しています。これからも、このよき伝統を守り、バスケットボールを通じて様々なことを学んでいきたいと考えています。これからも、我々の活動を温かく見守っていただけることを、部員一同心より願っております。



## バレーボール部

建築・都市システム学課程 4年 吉岩 明彦

この度はバレーボール部に課外活動活性化経費のご支援をしていただき、誠にありがとうございます。部員一同心より感謝の意を表します。

バレーボール部では普段の練習に加え、愛知大学リーグ戦、東海大学リーグ戦、東国体に出場しています。また夏季にはビーチバレーの大会にも積極的に参加しています。

今年度の結果は、愛知リーグ 4 部残留、東海リーグ 5 部残留となっており、惜しい試合が続く中で結果を残せずにいます。しかし、年度後半の秋季リーグではフルセットの末、勝利を取めるなど少しずつ士気は向上していると思います。

今回の課外活動活性化経費では、バレーボール 6 つの購入に使用させていただきました。バレーボールの公式球が移行したことにより、部内で使っているボールが移行に対応できていないため、今回この物品を申請することにしました。

新球が増えたことで、大会時の試合球に使用させていただいております。また、ゲーム形式の練習時においても新球を使用することでより本格的に経験を積むことが出来ています。

来年度では、大学リーグ戦の昇格を目標に精進していく所存であります。今後ともご支援をよろしく願います。





## ボランティア部

### 1系4年 中村優太

表浜 BLUEWALK2013 は、今年で7回目の活動を迎えました。今年は10日間の日程で活動を行い、当日参加を含め延べ500名が参加しました。そして約2500kg、袋数にして約1000袋のゴミを拾うことができました。幸いにも大きな事故や怪我もなく、参加者スタッフ共に全員笑顔でゴールをして、活動を終わることができました。

物品を支援していただいたことで、とても円滑な運営ができたのではないかと思います。講師を招き講演会の開催やスタッフによる話、また活動中の写真や動画を使ったワークショップを行うなど、パソコン、スクリーン、プロジェクターは欠かせませんでした。

また、炎天下の中歩きながら清掃するため、擦り傷や切り傷といった小さな怪我や気分が悪くなってしまう参加者もいました。そこで、救急箱セットの消毒液や絆創膏、体温計などを用いて患部への処置、容態の確認を行いました。ご支援のおかげでスムーズに対応することができ、結果として大きな怪我や事故に繋がらなかったのではないかと思います。

学生主体の活動に、このように物品を支援していただけるのは大変ありがたいことです。また、豊橋技術科学大学をはじめとする多くの周りの方々の協力があって行える活動であると感じています。ここに、感謝の意を表すると共に今後ともこの活動が継続できるよう見守って頂けることを願っています。



## ラグビー部

### 電気・電子情報工学課程4年 根本亜紀

いつもラグビー部を支援していただきありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。昨年秋の東海学生ラグビーCリーグで、全勝優勝したため、今年度はリーグが1つ上に上がってBリーグに所属し、これを書いている10月31日までに7試合中の6試合が終わっています。成績は6戦0勝6敗なので、次の試合に勝ったとしても入れ替え戦に出場します。

試合後は毎回ミーティングを行っています。その際には、援助金で購入したビデオカメラで撮影した試合の映像で自分たちのプレーを確認しています。悪いプレーについては、どこがなぜ悪かったのかは反省し、良いプレーはさらに伸ばしていけるように意見を出し合い、議論を交わしています。マネージャー目線ですが、選手たちは着実に一歩ずつ成長しています。試合の反省を生かして、スクラムやサインプレーでパスを回してトライに繋がったり、ラインアウトの正確性が増したり、タックルで確実に相手を倒したりなどのような技術の向上がみられます。また、ラグビーを楽しむという気持ちを持ってプレーしています。選手がお互いのことを理解して、チーム一丸となりリーグ戦での勝利を目指しています。

ラグビー部は、先輩方への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進してまいります。今後ともご支援とご声援のほどよろしくお願い申し上げます。



## ロボコン同好会

### 機械工学課程 3年 鈴木隼爾

この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費より活動支援していただき誠にありがとうございます。部員一同より心からお礼申し上げます。

さて、我々ロボコン同好会は「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」出場と優勝を目指して日々活動しています。今年は残念ながら国内大会「NHK 大学ロボコン 2013」に予選敗退でしたが、来年度はさらなる飛躍と国内大会の優勝を目指します。現在は来年度の「大学ロボコン 2014」の出場資格を獲得するため学部生 29 名、修士課程 12 名、博士課程 3 名の計 44 名で活動しています。活動はこれに限らず大学間の技術交流やイベントにも力を注いでおり、今年の 9 月 7 日では「キャチロボ・バトルコンテスト」並びに「東海地区交流ロボコン」に参加しました。また地域との交流の一環として、子供たちがロボットを身近に体験することを目的として地域イベントにも積極的に参加しています。

今年度は経費より高トルクモータ、さらにロボットの自動化を強化するため、測域センサ並びに画像処理センサと専用パソコンに充てさせていただきました。近年の大会でも自動化されたロボットが強く重視され、センシング技術の向上は実に有効であると考えています。このご支援を頂いたことを忘れず部員一同、精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



## 弓道部

### 建築・都市システム学課程 4年 田名後基明

弓道部の部長を務めさせて頂きました、建築・都市システム学課程 4 年の田名後基明と申します。この度は私たち弓道部に課外活動活性化経費のご支援をしていただき、誠にありがとうございます。援助金は弓の購入に充てさせて頂きました。今年も多くの新入生が入部し、学部生 46 名、大学院生 14 名、総勢 60 名で活動しております。そのため弓が不足している状況でしたが、今回の援助のおかげでより充実した練習を送ることが出来ました。部員を代表してお礼申し上げます。

弓道部は創部 6 年目を迎えましたが、東海地区国立大学体育大会では女子が団体 4 位、市民スポーツ大会弓道部門参段以下の部で男子が優勝、文部科学大臣生涯スポーツ優良団体賞受賞記念祝射会で男子が準優勝、男女ともに段位認定、他にも月例射会や道場記念大会等、多くの大会や審査で成績を残すことが出来ました。

現在弓道部は電気・電子情報工学系の教授である澤田和明先生に顧問をして頂き、野依神社弓道場で練習しております。弓道場建設計画により、大学内に立派な安土を作って頂いたのですが、部活動を行う設備としては未だ整っておりません。弓道場が完成すれば、より良い練習環境の下、今まで以上の結果が残せると考えております。

最後になりますが今年も弓道部を援助して頂き、誠にありがとうございました。私たち弓道部はこれからも日々精進していく所存です。今後ともご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。



## 軽音楽部

環境生命工学 学部 4 年 白井秀行

私たち軽音楽部のこの一年間の目標は、学内外問わず、ライブイベントで集客力のある部活動にするというものでした。そのために毎ライブの完成度を高め、お客さんに「見せる」ということを重視してきました。ここで、ライブの完成度とは演者の演奏技術や会場の見栄え等のことをいいます。

今回、課外活動活性化経費の支援を受け、部室に新しいキーボードを設置させていただきました。これにより、重いキーボードを毎練習時に持ち込む必要がなくなり、いつでもキーボードを部室で使うことが出来、また、自分のキーボードを持ってない人でも気軽にキーボードに挑戦することも出来ました。バンドメンバーや部員の技術の向上はキーボードを弾かない部員に対しても、「私もうまくなりたい」という強い刺激を与えました。

私は「また見たい」と思わせる演奏を行うことが集客力への大事な一歩だと感じています。事実、定期ライブ等での宣伝活動を経て、9月13日に行われたライブハウスでのイベントでは目標だった100名の来場者数を達成することが出来ました。部員の演奏技術の向上がこの目標の達成につながったと思います。また、この目標の達成は部員の大きな自信になりました。

今後も互いに競い合い、切磋琢磨しライブの完成度を高め、たくさんの人と関わっていける部活を目指していきたいと考えています。



## 国際交流クラブCALL

機械工学課程 4 年 堀尾亮介

昨年度は課外活動活性化経費を利用してバスをチャーターし、留学生と企業見学に行きました。留学生対象企業見学は毎年行なっているもので、留学生に日本の企業のことを知ってもらうことと、企業見学を通じて留学生と交流をすることを目的としています。昨年度は計22名（うち留学生15名）で、豊橋市の花王豊橋工場と、静岡県藤枝市の明治製菓東海工場に見学に行きました。

花王豊橋工場ではハンドクリームをはじめとするスキンケア用品の製造行程の説明とラインの見学をしました。プレゼンテーション及び、口頭での説明は日本語でしたが、日本人学生が（日本語を話せる留学生の助けを借りながら）通訳しました。

明治東海工場では、カール、ミルクチョコレートをはじめとするお菓子類の製造行程の説明、ラインの見学をしました。製造ラインの説明中には、できたての製品の試食もでき、非常に楽しい見学となりました。

ご支援頂いたおかげで大型貸切バスを利用して、非常に充実した見学旅行にすることができました。特に、豊橋市内にはないお菓子工場である静岡県の明治製菓東海工場を見学でき、留学生にも興味を持ってもらえる内容で実施できたと思います。ご支援に感謝いたします。今年度も課外活動活性化経費に採択されましたので、留学生に楽しんでもらえる企業見学を企画したいと思います。





## 自動車研究部

### 機械工学課程 4年 荒木悠志

この度は私たち自動車研究部へご支援をいただき、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。

今年度はコーナーウエイトゲージとインバータ発電機をご支援いただきました。コーナーウエイトゲージは車輛の重量バランスをリアルタイムで計測する機器で、車輛の運動性能を決定するサスペンションのセッティングを行うために使用させていただきました。インバータ発電機は主に大会会場において、電動工具の電源などとして活用させていただきました。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動を行っております。全日本学生フォーミュラ大会は、学生が企画・設計・製作した小型レーシングカーについて、車の走行性能だけでなく、コストや販売戦略も審査される、ものづくりの総合力が評価される大会です。授業では学ぶことのできない経験をすることで、自動車技術並びに産業の発展・振興に資する人材を育成するという趣旨があります。

今年開催された第11回大会は、台風の接近もあって会場のコンディションはいまひとつでしたが、4年ぶりに全種目で完走し、77チームが参加した中で総合10位を獲得することができました。また、最軽量化賞3位と加速性能賞3位も獲得することができました。

さらなる飛躍を目標に、皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けて活動していきたいと思いません。今後ともよろしく御礼申し上げます。



## 柔道部

### 機械システム工学課程 4年 坂 真一

この度は柔道部に援助をしていただき、誠にありがとうございます。部員を代表してお礼を申し上げます。今回の支援金は、今年度に招聘した講師に対する謝礼金、柔道着の刺繍、ゼッケン代に使わせて頂きました。

現在柔道部は学部生8人、修士生3人の総勢11人で活動しています。決して多くはない人数ながらも、昨年度から私たちの柔道部に講師が付いたため、東国体以外の大会や月次試験に参加出来るようになりました。現在の活動内容は部員の技術向上や試合に出て勝つことを目的として毎週火曜日、金曜日18:30～20:30の練習に加え、毎月1度、講師を招いての練習を行っております。今年度は、東三河社会人大会、東国体、豊橋市民スポーツ大会に出場しました。その中で、東三河社会人大会個人の部において3位が1人、豊橋市民スポーツ大会個人の部において優勝が1人、準優勝が1人といった結果になりました。今年度の大会はすべて終わりましたが現在の結果に満足することなく、今年度以上の結果を残せるよう精進していく所存です。

今回のご支援、誠にありがとうございました。



## 吹奏楽団

機械工学課程4年 日置隆介

この度は吹奏楽団に御支援を賜り、誠にありがとうございます。団員一同、心より深くお礼申し上げます。私どもは課外活動活性化経費にて頂いた援助金でマリンバを購入させて頂きました。

今年度、吹奏楽団では新入生12名を迎え、総勢49名で活動しています。私たちは「地域に根差す団」という団目標を掲げ、日々の活動にご理解頂いている近隣住民の方へ、音楽という形で感謝の気持ちをお返しさせて頂いております。実際に今年は地域のお祭りで演奏したり、高齢者の方々の所へ伺っての訪問演奏、歯科医師会の催しものでのミニコンサートなどを行い、訪問演奏にも積極的に取り組んでいます。また、豊橋市の中学・高校と合同演奏をして交流を深めたり、東海地区の大学の様々な吹奏楽団体とも交流しています。

ご支援頂いたマリンバは今年の10月に行った第29回定期演奏会でも早速使用させて頂き、活躍をしました。この先も小学校への訪問演奏や入学式や卒業式など演奏の機会は多々ありますので、大切に使用させて頂きます。

今回ご支援いただいたこと、そして多くの方々に支えられて活動していることを忘れず少しでも多く大学や地域のイベントに貢献できるように、団員一同精一杯活動を行っていきたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 模型部 (TUT)

情報・知能工学課程4年 野村高広

この度は、模型部の活動に対して支援をいただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。我々模型部は、今年もワンダーフェスティバルや雑誌のコンテストに参加する部員もおり、毎年行われている部内コンペ等の活動も活発に行っています。

今回、援助していただいた物品は、技科大祭において、子供向けのプラモデル体験会に使用させて頂きました。この催しは毎年好評をいただいております。今年も多くの子供たちに「またやりたい」と言ってもらえることができました。去年購入したプラモデルがすべて配り終わった後にもやりたいとやってきてくれた子がいたので、今年は少し多めにプラモデルを注文させて頂きましたがそれでもすべて渡し終えることができ、今年も多くの子供たちに、ものづくりの楽しさを伝えることができたかと思います。

このサークルも今年で4年目に入り、まだまだできたばかりですが、これからも模型を通じて、ものづくりの楽しさを伝えていけたらと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 陸上競技部

### 情報・知能工学課程4年 畠山竜大

まず、昨年度購入して頂いたビデオカメラは、走る、投げる、及び跳ぶ際のフォームチェックに大変役立っており、今年度の各種大会において入賞者が多数続出した事に結び付いたと感謝しています。

我々陸上競技部は、マネージャーを含めても20名に満たない少数であるからこそ、専門種目は違えど、お互いに励まし合いながら日々練習に励んでおります。先に述べた通り、今年度は東海学生陸上競技対校選手権大会をはじめ、東海地区及び東三河地区の主要な大会にて入賞した者が多数おります。入賞した種目はフィールド競技、トラック競技の偏りが無い事から、普段の練習から選手間の良い雰囲気が各種大会の結果にも良い影響を与えていたものと考えます。今年度は、経年劣化により変形したやり投げ用「やり」、短距離走のための「スターティングブロック」、トラックの距離を正確に計測する「ウォーキングメジャー」、そしてリレー種目のための「バトン」も新たに購入して頂き、誠にありがとうございました。部員一同、大切に使用させていただきます。

これから長距離部門以外はシーズンオフに入ります。来年度の大会に向けて厳しい寒さとの戦いですが、各自が自己記録の更新を狙って努力していく所存であります。これからも熱い声援をよろしくお願い致します。